

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	愛知淑徳大学
設置者名	学校法人 愛知淑徳学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	国文学科		34	0	0	34	13	
	総合英語学科※1				0	34	13	
	教育学科				0	34	13	
	英文学科 ※1				0	34	13	
人間情報学部	人間情報学科		0	0	34	13		
心理学部	心理学科		0	0	34	13		
創造表現学部	創造表現学科 創作表現専攻		34	0	0	34	13	
	創造表現学科 メディアプロデューズ専攻				0	34	13	
	創造表現学科 建築・インテリアデザイン専攻				0	34	13	
健康医療科学部	医療貢献学科 言語聴覚学専攻		0	0	0	34	13	
	医療貢献学科 視覚科学専攻				0	34	13	
	スポーツ・健康医科学科				0	34	13	
	健康栄養学科 ※2				0	34	13	
福祉貢献学部	福祉貢献学科 社会福祉専攻		0	0	34	13		

	福祉貢献学科 子ども福祉専攻				0	34	13	
交流文化学部	交流文化学科 ランゲージ専攻		36	0	0	36	13	
	交流文化学科 国際交流・観光専攻				0	36	13	
ビジネス学部	ビジネス学科 現代ビジネス専攻			0	0	36	13	
	ビジネス学科 グローバルビジネス専攻				0	36	13	
グローバル・コミュニケーション学部	グローバル・コミュニケーション学科 ※3			0	0	36	13	
(備考) ※1 総合英語学科 2018年度設置。2021年度完成年次。 英文学科 2017年度をもって募集停止。 ※2 健康栄養学科 2017年度設置。2020年度完成年次。 ※3 グローバル・コミュニケーション学部 2016年度設置。2019年度完成年次。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

2019年度は大学ホームページ・授業概要（シラバス）の別表として掲載。  
<https://www.aasa.ac.jp/life/support/summary/jitsumu.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	愛知淑徳大学
設置者名	学校法人 愛知淑徳学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<a href="https://www.aasa.ac.jp/gakuen/organization/index.html">https://www.aasa.ac.jp/gakuen/organization/index.html</a>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元大学副学長	H29. 6. 12 ～ R3. 6. 11	学務
非常勤	弁護士	H29. 6. 12 ～ R3. 6. 11	コンプライアンス
非常勤	元副理事長	H29. 6. 12 ～ R3. 6. 11	学務
非常勤	歯科医院長	H29. 6. 12 ～ R3. 6. 11	安全衛生 危機管理
非常勤	病院院長	H30. 4. 1 ～ R4. 3. 31	安全衛生 危機管理
非常勤	株式会社常任監査役	H29. 4. 1 ～ R3. 3. 31	財務・経理
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	愛知淑徳大学
設置者名	学校法人 愛知淑徳学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>毎年12月初旬に、シラバス執筆者に授業計画(シラバス)執筆を依頼。シラバス執筆者は、授業計画(シラバス)執筆要領により、執筆項目を記載。執筆項目は、次のとおり。</p> <p>①授業の概要、②授業の目標、③授業計画、④授業外学習の指示、⑤評価方法、⑥使用テキストの有無とテキストのタイトル、⑦参考文献・資料の明示。</p> <p>提出にあたり、シラバス執筆者自身がシラバス・チェックリストで記載内容を確認の上、提出。提出方法は、シラバス執筆システムによる。</p> <p>1月初旬の提出締め切りの後、シラバス担当が確認し、不備がある場合は執筆者に連絡し、修正を依頼。確認作業終了の後、1月中旬に入稿。数回の校正を経て、3月中旬にシラバス(冊子)完成、在学生の希望者に配布。4月に新入生全員に配布。Webシラバスは、3月中旬に大学HPに公開。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="http://pnavi.aasa.ac.jp/syllabus/search/search.php">http://pnavi.aasa.ac.jp/syllabus/search/search.php</a>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>成績は、授業担当者が定期試験・レポート・小テスト・平常の学修状況・実技実習等の評価方法により、学修指標に対する到達結果をもって評価する。各科目ごとの具体的な評価方法については、「授業概要(シラバス)」に記載。</p> <p>また、学部ごとに成績評価における評価項目・評価基準を定めている。</p>	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)	
<p>履修した科目のうちGPA算出対象科目について、それぞれの科目の成績を表す評価点に、単位数を掛けたものを総合計し、該当科目の総単位数で割ることにより算出。</p> <p>成績評価が「認」(読み替えによる認定)、「合」「否」(合/否により成績が評価される授業)、「W」(履修中止)の科目は、GPA算出対象から除外。</p>	

《GPA の算出方法》

$$\frac{[(\text{履修登録した科目の総単位数}) \times (\text{その科目の評価点})] \text{の総和}}{(\text{履修登録した科目の単位数}) \text{の総和}}$$

学内設置委員会である教務連絡会において、6月・前年度後期、11月・当年度前期のGPA成績を、学部教委員長に提供し、開講科目の難易度の適正化や学生の履修指導等に利用している。

客観的な指標の算出方法の公表方法	<a href="https://www.aasa.ac.jp/life/support/summary/directory.html">https://www.aasa.ac.jp/life/support/summary/directory.html</a>
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

学部ごとに以下のとおり、ディプロマ・ポリシーを策定、公表している。

1. 文学部

文学部は、〈言葉の力〉を不断に練磨することにより、〈人間探究〉の精神と〈創造的思考力〉とを身につけて、社会の発展に寄与できる優れた人材を育成することを教育目的とし、以下の能力を修得した学生に学士の学位を授与する。

- (1) 〈人間探究〉の精神を不断に持ち続けることができる。(関心・意欲・態度)
- (2) 〈創造的思考力〉すなわち「物事の本質を認識する力」、「問題を分析し情報を整理する力」、「課題を発見し解決策を導き出す力」、「論証を通して自分の考えを伝える力」を発揮できる。(思考・判断・技能)
- (3) 人類の知的・文化的遺産を正しく継承し、現代社会に対して深く洞察することができる。(知識・理解)
- (4) 〈言葉の力〉を不断に練磨することができる。(表現・態度)
- (5) 最終的学修成果として各学科が求めるものは以下の通りである。

【国文学科】

読解力の深化、問題発見能力の開発、調査能力すなわち情報収集・整理・批判能力の体得、論理的思考力の練磨、自己表現力の獲得等、知的社会に生きる現代人に必須の様々な能力を身につけること。

【総合英語学科】

英語で自在に「読み」「書き」「聞き」「話す」ことのできる高度な英語運用能力、技能を活用した思考力・判断力・発信力、さらに、日本および英語が使われる国や地域の歴史・文化についての深い知識を備えた鋭い国際感覚を身につけること。

【教育学科】

児童の個性に寄り添える確かな専門的知識と優れた実践的能力をもつとともに、特別支援を必要とする児童への深い理解と障害の多様化・重度化に適切に対応できる実践力を備えること。さらに学校教育の枠を超えた生涯学習分野に活躍の場を求める場合も新しい時代の教育に対応できる基本を修得し、柔軟な思考力をもったリーダーたる力を身につけること。

【英文学科】

英語圏文化や歴史を英語で学び、英語という言葉の背景への見識を深め、さらに情報化時代に対応したコンピュータリテラシーを修得して、英語でプレゼンテーションできること。

## 2. 人間情報学部

人間情報学部人間情報学科では、「変わりゆく人間社会の未来を予測できる力」、「様々な情報資源を的確に活用できる力」、そして「ヒューマンフレンドリーな情報社会に貢献できる力」を身に付けた人材を育成することをめざしている。この目標を達成するために、以下にあげるような能力を修得した学生に学位を授与する。

### 【人間情報学部人間情報学科（3専修・3系列）】

- (1) 人間情報学についての学問の内容と方法を理解し、ものづくりや情報サービスに活用することができる（知識・理解）
- (2) 人間、情報、コンピュータの特性を科学的に考察し、実証的かつ論理的に思考や判断することができる（思考・判断）

### 【情報デザイン・システム専修、コンテンツデザイン系列】

- (1) 人間の感性やバリアフリーの観点から情報サービス・製品・空間を効果的にデザインできる（関心・意欲・態度）
- (2) ユーザの多様性に配慮したアプリやシステムを企画・設計・開発できる（技能・表現・態度）

### 【心理情報専修、ヒューマンアナライジング系列】

- (1) より良いものづくりや情報サービスに向けて、心理学の観点から、人間とモノとの関わりを理解・考察することができる（関心・意欲・態度）
- (2) 人間の知覚特性や行動特性を科学的に検証し、定量化・可視化・文章化することができる（技能・表現・態度）

### 【図書館情報学専修、リソースマネージング系列】

- (1) 情報マネジメントや多様な情報メディアを効果的に活用した情報サービスでの問題探求能力を身に付けている（関心・意欲・態度）
- (2) 適切な情報利用のために、情報サービスのあり方を効果的に提案できる（技能・表現・態度）

## 3. 心理学部

現代の心理学は実証主義に基づく経験科学であり、また、現実生活で生じる人と人、人と環境のダイナミックな相互作用現象を問題にする行動科学である。したがって、現象を机上のみで理解するのではなく、現象を捉える客観的なデータの収集、分析、考察という、段階的に積み上げていく科学的アプローチが必要とされる。心理学部ではこのような特徴をもつ現代心理学の学修を通じて、心の多様性と普遍性を理解し、他者を尊重するとともに、自己を正しく表出しようとする人材、さらには人間関係の中で生じる諸問題に適切に対処し得る人材を育成することを目指している。この目標を達成するため、人間行動のさまざまな現象を現代心理学の主要な領域である「生理・認知」「社会」「発達」「臨床」の4つの領域から多角的な視点で総合的に究明するカリキュラムを編成し、以下のような知識・能力を身につけた者に学位を授与する。

- 心の多様性と普遍性、人と人、人と環境の相互作用を理解する力
- 科学的な根拠に基づいて実証的に分析し、論理的に思考する力
- 幅広い人間行動や社会現象の中から問題点を発見し解決していく力
- ディスカッションやプレゼンテーションを含むコミュニケーション力

## 4. 創造表現学部

創造表現学部では、それぞれの専攻の学修を通じて「表現力」「創造力」「コミュニケーション力」を高めることによって、豊かな自己表現ができ、実社会の諸問題にも適切な対処ができる人材の育成を目標にしている。この教育目標を達成するために、以下にあげるような能力を修得した学生に学位を授与する。

**【創作表現専攻】**

- (1) 知的財産としての言語文化・表象文化に関する見識を持ち、その価値の継承・発信の社会的意義を理解することができる。(知識・関心・理解)
- (2) 文化的叡智に幅広く触れることで総合的な判断力を養い、自己の考えを他者に的確に伝えることができる。(思考・判断)
- (3) 文芸を中心とした創造的な表現活動に携わり得る知識と実践的な表現技術とを身につけることができている。(技能・表現)

**【メディアプロデュース専攻】**

- (1) PC やメディア機器を使用する映像処理を理解し、ビデオやパンフレットなどのメディアコンテンツの制作に関する基礎知識を身につけている。(技能・表現)
- (2) 各種メディアの特徴を理解し、メディアを利用して豊かに表現、発想ができ、戦略的に企画・立案する能力を身につけている。(関心・態度)
- (3) 現代社会の問題を読み解き、時代のニーズを的確に捉え、社会的視座を持って問題解決に臨むことができる。(知識・理解)

**【建築・インテリアデザイン専攻】**

- (1) 周辺環境、文化的背景、機能や経済性などの多様な条件を読み解き、建築・インテリアに関わる各種課題を解決するために必要な思考力・判断力を有する。(思考・理解・判断)
- (2) コンセプトを的確に伝えるプレゼンテーション能力と共同作業に必要なコミュニケーション能力を身につけている。(表現・態度)
- (3) 建築の専門的知識と技能を身に付け、一級建築士などの資格を目指すことができる。(知識・技能)

**5. 健康医療科学部**

健康医療科学部は高齢者や障がいのある人をはじめ、すべての人の生活の質を向上することに貢献し得る人材、さらに良い人間関係を築くための対人技術および他者への理解と尊重を有する人材の育成を目標にしている(態度)。この教育目標を達成するために、以下の能力を習得した学生に学位を授与する。

**【医療貢献学科(言語聴覚学専攻)】**

- ① 言語聴覚士の国家資格獲得を目指し、障がい者支援のための専門家として必要な知識と技能を有する者(知識・技能)
- ② 職能の範囲にとどまらず、必要に応じて問題点を発見し、新しい検査・評価・訓練・指導・支援の技法の開発および評価を行い得る知識と技能を有する者(意欲・判断力・開発力)
- ③ 科学的な根拠にもとづいて実証的に分析し、論理的に思考する能力を有する者(科学的思考力)

**【医療貢献学科(視覚科学専攻)】**

- ① 視能訓練士の国家資格を目指し、障がい者支援のための専門家として必要な知識と技能を有する者(知識・技能)
- ② 職能の範囲にとどまらず、必要に応じて問題点を発見し、新しい検査・評価・訓練・指導・支援の技法の開発および評価を行い得る知識と技能を有する者(意欲・判断力・開発力)
- ③ 科学的な根拠にもとづいて実証的に分析し、論理的に思考する能力を有する者(科学的思考力)

**【スポーツ・健康医科学科】**

- ① スポーツ科学および健康医科学に関する幅広い知識を有し、その知識を背景に、生涯にわたる健康の維持・増進に携わる専門家として認められる者(知識・技能)

- ② 習得した知識をもとに生涯健康に関する諸問題に対し、自ら考え、解決策を見出し、それをもとに行動できる者（判断・関心・行動）
- ③ 健康と運動に関する問題に対し、科学的な根拠にもとづいて実証的に分析する能力を有する者（科学的思考力）

#### 【健康栄養学科】

- ① 管理栄養士として必要な幅広い教養と、専門的かつ科学的知識、高度な実践能力を有し、人々の健康の保持・増進、生活の質の向上を通して健康長寿社会に貢献していく高い志を有する者（知識・技能）
- ② 強い使命感と判断力、豊かなコミュニケーション能力を有し、各ライフステージおよび人々の状況に対応した適切な栄養管理を、他職種と協調しながら遂行できる者（意欲・判断力・コミュニケーションスキル）
- ③ 「健康」と「栄養」、「食」に関する問題を自ら発見し、問題解決に向け、科学的根拠に基づいて実証的に分析し、倫理的に思考する能力を有する者（創造的・科学的思考力）

### 6. 福祉貢献学部

福祉貢献学部では、福祉に関する社会のしくみと対象の理解に必要な基礎知識を修得したうえで、対象者の求めと必要を理解し、総合的に判断・実践できる人材の育成を目標にしている。この教育目標を達成するために、以下にあげるような能力を習得した学生に学位を授与する。

- ① 知識・理解  
人を多面的に理解し、人と社会環境の視点から問題・課題を理解することができる。
- ② 関心・意欲・態度  
乳幼児期から高齢期までの人々の尊厳を重視してかかわることができる。
- ③ 思考・判断  
対象者の求めと必要を理解し、総合的に判断することができる。
- ④ 技能・表現  
体験と実習をとおして学びを深め、専門職としての基礎的実践力を身につけている。

### 7. 交流文化学部

交流文化学部は、さまざまな文化的背景を持つ人々との交流を通して、相互理解と尊重に基づき社会の発展に積極的に貢献する人材の育成を目標にしている。この教育目標を達成するために、以下の能力を習得した学生に学位を授与する。

- (1) 多文化・異文化に関する基本的な知識を習得し、広い視野から社会をとらえ、理解することができる。（知識・理解）
- (2) 多様な考え方・生き方を受け入れることができる。（態度）
- (3) 獲得した知識・技能・態度等を活用して問題の解決を図ることや新しい社会・文化を生成することに貢献できる。（思考・判断）
- (4) 日本語と特定の外国語を用いて、読み・書き・聞き・話すことができる。多様な文化的背景を持つ人々と効果的なコミュニケーションができる。（技能・表現）
- (5) 継続的に、自律して学習・探求することができる。（関心・意欲）

### 8. ビジネス学部

ビジネス学部は、実社会で自ら道を切り開く「魂ある人材」の育成を目指す学部である。ビジネスに関する専門知識はもちろんのこと、「コミュニケーション能力」「行動力」「情熱」をも兼ね備えた有能な「ビジネスパーソン」を育成する。



ビジネス学部を卒業した学生は、幅広い就職先に巣立っていく。将来予想される多様なキャリアパスに対応するために、次のような配慮をしている。

2014年度・2015年度に入学した学生に適用されるカリキュラムでは、修得できる能力によって切り分けた5つのコース、「ビジネスイノベーション」「アカウンティング」「ストラテジックICT」「ファイナンス」「ストラテジックマネジメント」を自由に組み合わせて汎用性のある能力を得られるような配慮をしている。

2016年度以降に入学した学生に適用されるカリキュラムでは、ビジネス学部における学びからどのような能力が得られるのかを明確化、次の4つの能力を学部教育の中で共通に習得できる能力として掲げることになった。

**DP①：【つながるチカラ】**

ビジネスパーソンとして必要となるコミュニケーション力が身につけている

**DP②：【適応するチカラ】**

多様な業界に関する知識を修得し、シゴトを理解していると同時に高い職業意識を持っている

**DP③：【応用するチカラ】**

資格を取得し、そのスキルを社会で役立てることができる

**DP④：【行動するチカラ】**

企業と連携したプログラムや海外研修など、実践を通して主体的にやり抜く力を身につけている

多様なキャリアパスに対応するためには軸となる「専門知識」が不可欠である、との観点から、「学びの専門性」をさらに高めることを目的とする専攻・コース等を設置することとした。

2016年度・2017年度の入学者については、従来の5つのコースを3専攻（ビジネスイノベーション専攻、ビジネスアカウンティング専攻、グローバルビジネス専攻）に集約し、1年次後期から各専攻での「専門的な学び」から次の能力が得られるような配慮をしている。

2018年度の入学者からは、入学時より現代ビジネス専攻とグローバルビジネス専攻に分けることにより、専門的な学びをさらに推し進める体制とした。このうち現代ビジネス専攻の学生は、1年次後期よりビジネスイノベーションコース、ビジネスアカウンティングコースに分かれることで、従来からの専門の枠組みを維持している。

**【現代ビジネス専攻】**

ビジネスイノベーションコース（2016年度・2017年度の「ビジネスイノベーション専攻」に該当）

**DP⑤-BI：【アイデアを創造し、形にするチカラ】**

マーケティングと経営戦略の知識をベースとし、アクティブラーニングを通じて、企業・組織に対して問題解決案を提示することができる

ビジネスアカウンティングコース（2016年度・2017年度の「ビジネスアカウンティング専攻」に該当）

**DP⑤-BA：【ビジネスの言語を読み解き、経営をサポートするチカラ】**

会計学全般の知識をベースとし、財務諸表を作成・分析するスキルを修得した上で、経営者に対して専門的な助言ができる

**【グローバルビジネス専攻】**

**DP⑤-GB：【世界とつながり、現場で活躍するチカラ】**

国際経済、国際金融などのグローバルビジネスの現場に必要な専門知識を、英語と日本語のバイリンガルで身につけている

その上で、ビジネス学部では2014年度入学者以降、コアとなる知識を確実に修得するためにゼミナール・卒業プロジェクトを必修化（卒業プロジェクトについてはグローバルビジネス専攻を除く。）し、ゼミが所属する分野の科目を集中的に履修

することを義務づけている。また、簿記、語学、コンピュータなどの実践的領域のスキルを1つ以上向上させることにより、企業などの実社会で活躍しうるビジネスパーソンを育成することを目指している。

#### 9. グローバル・コミュニケーション学部

グローバル・コミュニケーション学部では、グローバル社会において、文化や価値観の異なる人々と協力してさまざまな課題や問題を解決する能力のある「地球市民」を育成することとしている。

(DP1)

国内・国外の文化や社会情勢を理解し、世界の人々に説得力のあるメッセージを発信するために必要な知識を身に付ける。

(DP2)

グローバル社会であらゆる状況に対応するために必要な英語運用能力、英語コミュニケーション能力、問題解決能力を身に付ける。

(DP3)

文化や価値観が異なる社会での学修や体験を通じ、社会的・文化的背景の異なる人々の違いを認め、同じ「地球市民」として共生するように考えることができる姿勢を身に付ける。

また、卒業判定の手順については、学部による違いはない。卒業判定の手順は以下のとおり。

1. 定期試験などによる学生の履修科目の成績を確定
2. 卒業要件修得単位数、修業年数の確認
3. 当該資料を学部に提出
4. 学部教授会による卒業判定の審議・承認

卒業の認定に関する方針の公表方法	<a href="https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/diploma_policy_fac.html">https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/diploma_policy_fac.html</a>
------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	愛知淑徳大学
設置者名	学校法人 愛知淑徳学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.aasa.ac.jp/gakuen/jigyo/index.html">https://www.aasa.ac.jp/gakuen/jigyo/index.html</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.aasa.ac.jp/gakuen/jigyo/index.html">https://www.aasa.ac.jp/gakuen/jigyo/index.html</a>
財産目録	<a href="https://www.aasa.ac.jp/gakuen/jigyo/index.html">https://www.aasa.ac.jp/gakuen/jigyo/index.html</a>
事業報告書	<a href="https://www.aasa.ac.jp/gakuen/jigyo/index.html">https://www.aasa.ac.jp/gakuen/jigyo/index.html</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.aasa.ac.jp/gakuen/jigyo/index.html">https://www.aasa.ac.jp/gakuen/jigyo/index.html</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.aasa.ac.jp/guidance/efforts/accreditation.html">https://www.aasa.ac.jp/guidance/efforts/accreditation.html</a>
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.aasa.ac.jp/guidance/efforts/accreditation.html">https://www.aasa.ac.jp/guidance/efforts/accreditation.html</a>
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

文学部
<p>教育研究上の目的          (公表方法：<a href="https://www.aasa.ac.jp/guidance/about/policy.html">https://www.aasa.ac.jp/guidance/about/policy.html</a> )          (概要)</p> <p>国文学科は、自立した総合的な認識力・判断力・批判力を身につけるとともに、知性と感性を磨いて豊かな人間性を涵養し、もって社会に貢献できる有為の人材の養成を目的とし、現代の国際的な社会にあつて日本文化、歴史、伝統の継承と発展を視野に入れながら日本の古典文学、近現代文学、国語及び中国文学に関する基礎的かつ専門的な教育研究を行う。</p> <p>総合英語学科は、「総合的に英語を教育する学科」として、高度な英語力を有し、鋭い国際感覚を身につけた職業人を育成することを教育目的とし、英語の「読む」「書く」「聞く」「話す」という 4 技能を鍛え上げ、これらの技能を活用した思考力・判断力・発信力を身につけるための教育研究を行う。</p> <p>教育学科は、小学校教員並びに特別支援学校教員、加えて生涯学習分野での指導者の養成を目的とし、教育の本質である人格形成について広い視野から考えられる確かな専門的知識と時代や環境の変化に対応できる優れた実践的能力を身につけるための教育研究を行う。</p>
<p>卒業の認定に関する方針          (公表方法：<a href="https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/diploma_policy_fac.html">https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/diploma_policy_fac.html</a>)          (概要)</p> <p>文学部は、〈言葉の力〉を不断に練磨することにより、〈人間探究〉の精神と〈創造的思考力〉とを身につけて、社会の発展に寄与できる優れた人材を育成することを教育目的とし、以下の能力を修得した学生に学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 〈人間探究〉の精神を不断に持ち続けることができる。(関心・意欲・態度)</li> <li>(2) 〈創造的思考力〉すなわち「物事の本質を認識する力」、「問題を分析し情報を整理する力」、「課題を発見し解決策を導き出す力」、「論証を通して自分の考えを伝える力」を発揮できる。(思考・判断・技能)</li> <li>(3) 人類の知的・文化的遺産を正しく継承し、現代社会に対して深く洞察することができる。(知識・理解)</li> <li>(4) 〈言葉の力〉を不断に練磨することができる。(表現・態度)</li> <li>(5) 最終的学修成果として各学科が求めるものは以下の通りである。</li> </ol> <p>【国文学科】          読解力の深化、問題発見能力の開発、調査能力すなわち情報収集・整理・批判能力の体得、論理的思考力の練磨、自己表現力の獲得等、知的社会に生きる現代人に必須の様々な能力を身につけること。</p> <p>【総合英語学科】          英語で自在に「読み」「書き」「聞き」「話す」ことのできる高度な英語運用能力、技能を活用した思考力・判断力・発信力、さらに、日本および英語が使われる国や地域の歴史・文化についての深い知識を備えた鋭い国際感覚を身につけること。</p>

### 【教育学科】

児童の個性に寄り添える確かな専門的知識と優れた実践的能力をもつとともに、特別支援を必要とする児童への深い理解と障害の多様化・重度化に適切に対応できる実践力を備えること。さらに学校教育の枠を超えた生涯学習分野に活躍の場を求める場合も新しい時代の教育に対応できる基本を修得し、柔軟な思考力をもったリーダーたる力を身につけること。

### 【英文学科】

英語圏文化や歴史を英語で学び、英語という言葉の背景への見識を深め、さらに情報化時代に対応したコンピュータリテラシーを修得して、英語でプレゼンテーションできること。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：

[https://www.aasa.ac.jp/guidance/public\\_info/curriculum\\_policy\\_fac.html](https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/curriculum_policy_fac.html))

(概要)

文学部は3学科で構成され、専門教育科目については学科ごとの教育課程によるが、学部共通の必修科目を以下の通り開講して、学部を通じた人材像の育成を図る。

- (1) 「日本語表現 T1・T2」を1年次必修として、日本語リテラシーの基礎を習得する。
- (2) 「人間探究」を1年次必修として、大学および文学部で学ぶことの意義を理解する。
- (3) 国文学科「キャリアプランニング」、総合英語学科「Career Planning」、英文学科「Central Japan」、教育学科「職業としての教育」をそれぞれ3年次必修として、大学卒業後の進路について考える。

### 国文学科

開講科目を〈基礎科目〉〈基幹科目〉〈基本科目〉〈展開科目〉〈実践科目〉〈中核科目〉に分類し、その中から興味と関心に応じて自由かつ体系的に選択学修ができるように教育課程を編成し、その成果を卒業論文として結実させることとする。特色は以下の通り。

- (1) 学科独自の必修科目は、「演習Ⅰ」(3年次)、「演習Ⅱ」(4年次)、「文献講読演習」(4年次)および「卒業論文」(4年次)のみとする(ただし、「卒業論文」を除き選択必修科目)。
- (2) 導入教育の一環として、〈基礎科目〉群14科目を開講する。
- (3) 教育職員志望者のために、〈実践科目〉群10科目を開講する。

### 総合英語学科

- (1) 〈基礎科目〉群では、本学科での学修に必要な英語および日本語の基礎トレーニングや大学で学ぶことの意味や自律的・自発的学修に必要な思考法・方法論を学ぶ3科目を開講する。
- (2) 英語を「読み」「書き」「聞き」「話す」ための〈スキル〉を総合的に高め、英語理解や英文理解に必要な〈理論〉を修得し、英語を総合的に〈応用〉できる能力を身につけるために〈総合英語教育科目〉群47科目を開講し、〈スキル〉系科目の授業は全て英語でおこなう。
- (3) 国際文化の理解を深めるために、〈国際文化科目〉群19科目を開講する。
- (4) 〈発展科目〉群の中に、関心あるテーマを発見し、追究する能力を養う「専門演習Ⅰ～Ⅳ」と「課題実践演習Ⅰ、Ⅱ」6科目および「長期海外セミナー1～8(前期・後期)」16科目を開講する。
- (5) 実践的英語力を活かしたキャリアに必要な知識・技術・資格を身につけるために、〈キャリアデザイン科目〉群40科目を開講する。

### 教育学科

開講科目を〈基礎科目〉〈発展科目〉〈小学校教員養成科目 A〉〈特別支援学校教員養成科目〉〈小学校教員養成科目 B〉〈小学校教員養成科目 C〉〈生涯学習指導者養成科目〉に分類し、希望する職種に就くために必要な資格が取得できるよう、体系的に教育課程を編成している。

- (1) 〈基礎科目〉〈発展科目〉として、教育および教職関係の講義・演習科目と、教育体験実習科目を開講する。
- (2) 〈小学校教員養成科目 A〉〈特別支援学校教員養成科目〉〈小学校教員養成科目 B〉として、幅広い知識と技能を習得し、目指す進路に応じた教員免許状取得のために必要な演習・講義・実習科目を開講する。
- (3) 〈小学校教員養成科目 C〉〈生涯学習指導者養成科目〉として、本学の教育理念である「違いを共に生きる」を実現するための講義科目を開講する。

#### 英文学科 2014 年度以降入学者用

開講科目を〈基礎モジュール〉〈基礎〉〈充実〉〈発展〉〈スキル発展〉〈英語教員養成プログラム〉〈海外研修〉に分類し、その中から興味と関心に応じて体系的に選択学修ができるように教育課程を編成する。特色は以下の通り。

- (1) 〈基礎モジュール〉群のうち 12 科目を必修とする。
- (2) 〈基礎〉群中「First Year Seminar (2016 年度以降入学者)、基礎演習 (2014・2015 年度入学者)」を含む 10 科目 (1 年次) を、習熟度別クラス編成とする。
- (3) 教育職員志望者のために、〈英語教員養成プログラム〉群 14 科目を開講する。
- (4) 〈海外研修〉群として、「長期海外セミナー」を 16 科目開講する。

#### 入学者の受入れに関する方針

(公表方法:

<https://www.aasa.ac.jp/examination/policy/faculty.html?id=QuickNavi> )

(概要)

文学部は、〈言葉の力〉を不断に練磨することにより、〈人間探究〉の精神と〈創造的思考力〉とを身につけて、社会の発展に寄与したいと考えている意欲的な学生の入学を求める。

具体的には、次の能力を求めたい (3 学科共通)

- (1) 物事の本質を認識する能力。
- (2) 課題を発見し、解決策を提示する能力。
- (3) 問題を分析し、情報を整理する能力。
- (4) 論理的に思考し、思考結果を発信する能力。

#### ●国文学科

国文学科は、国文学の専門知識を生かして社会の発展に寄与したいと考えている意欲的な学生の入学を求める。具体的には、次のような能力を求めたい。

- (1) 文章・言語表現を正しく読解する能力。
- (2) 文学作品を深く鑑賞する能力。
- (3) 考えたことを文章化する能力。

#### ●総合英語学科

総合英語学科は、英語運用能力を生かして社会に貢献したいと考えている意欲的な学生の入学を求める。具体的には、次のような能力・関心を求めたい。

- (1) 英語でコミュニケーションするための基礎的能力。
- (2) 言語や英語圏の文化に対する強い関心。
- (3) 異文化体験に対する強い興味・関心。

#### ●教育学科

教育学科は、子どもたちの未来を切り拓く、人間性豊かな教員を目指す意欲的な学生の

<p>入学を求める。具体的には、次のような姿勢・態度を求めたい。</p> <p>(1) 教育に対する強い関心と熱い志。</p> <p>(2) 人間や社会に対する幅広い関心と愛情。</p> <p>(3) 新しい時代の教育に必要な知識・技能を習得しようとする積極的な姿勢。</p>
--

人間情報学部
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：<a href="https://www.aasa.ac.jp/guidance/about/policy.html">https://www.aasa.ac.jp/guidance/about/policy.html</a> )</p>
<p>(概要)</p> <p>人間情報学科は、「人間理解」を基本理念として、人間の心の仕組みや行動、動作に至る人間の特性を明らかにしながら、文系の知と理系の知をつなぐことによりユニバーサルデザイン社会の実現に貢献できる情報技術と情報マネジメントの理論構築・開発・応用に資する有為な人材を育成することを教育の目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：<a href="https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/diploma_policy_fac.html">https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/diploma_policy_fac.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>人間情報学部人間情報学科では、「変わりゆく人間社会の未来を予測できる力」、「様々な情報資源を的確に活用できる力」、そして「ヒューマンフレンドリーな情報社会に貢献できる力」を身に付けた人材を育成することをめざしている。この目標を達成するために、以下にあげるような能力を修得した学生に学位を授与する。</p> <p><b>【人間情報学部人間情報学科（3専修・3系列）】</b></p> <p>(1) 人間情報学についての学問の内容と方法を理解し、ものづくりや情報サービスに活用することができる（知識・理解）</p> <p>(2) 人間、情報、コンピュータの特性を科学的に考察し、実証的かつ論理的に思考や判断することができる（思考・判断）</p> <p><b>【情報デザイン・システム専修、コンテンツデザイン系列】</b></p> <p>(1) 人間の感性やバリアフリーの観点から情報サービス・製品・空間を効果的にデザインできる（関心・意欲・態度）</p> <p>(2) ユーザの多様性に配慮したアプリやシステムを企画・設計・開発できる（技能・表現・態度）</p> <p><b>【心理情報専修、ヒューマンアナライジング系列】</b></p> <p>(1) より良いものづくりや情報サービスに向けて、心理学の観点から、人間とモノとの関わりを理解・考察することができる（関心・意欲・態度）</p> <p>(2) 人間の知覚特性や行動特性を科学的に検証し、定量化・可視化・文章化することができる（技能・表現・態度）</p> <p><b>【図書館情報学専修、リソースマネージング系列】</b></p> <p>(1) 情報マネジメントや多様な情報メディアを効果的に活用した情報サービスでの問題探求能力を身に付けている（関心・意欲・態度）</p> <p>(2) 適切な情報利用のために、情報サービスのあり方を効果的に提案できる（技能・表現・態度）</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法： <a href="https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/curriculum_policy_fac.html">https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/curriculum_policy_fac.html</a>)</p>

(概要)

人間情報学部人間情報学科のカリキュラムは、2016年度以降入学者については、1年次の「学部共通科目」、2年次から所属する専修の「専修科目」に分けて各授業を計画する。2015年度以前入学者については、基礎共通科目群と系列共通科目群、および系列科目群で各授業を計画する。

**学部共通科目、基礎共通科目**

学部共通科目および基礎共通科目は、人間情報学全般に関する幅広い知識と、人間、情報、そしてコンピュータの特性を科学的・論理的に考察できる能力を身に付けることを目標として、キャリア形成、ものづくりの基礎、人間理解の基礎、情報活用の基礎、コンピュータの基礎の授業分野から各授業を計画する。

**専修科目、系列共通科目・系列科目**

**情報デザイン・システム専修、コンテンツデザイン系列**

情報デザイン・システム専修およびコンテンツデザイン系列の専門科目は、人にやさしく豊かなデジタルライフを提案・創造し、今後のヒューマンフレンドリーな情報社会に貢献する人材を育成することを教育目標として、情報デザイン、コンテンツデザイン、システム開発、システム工学、卒業研究・制作の授業分野から各授業を計画する。

**心理情報専修、ヒューマンアナライジング系列**

心理情報専修およびヒューマンアナライジング系列の専門科目は、変わりゆく人間社会の未来を予測し、より良い情報サービスやシステム開発に、自分の能力を活かせる人材を育成することを教育目標として、心理学研究法、実験演習、知覚心理学、発達・社会心理学、比較・生理心理学、心理・工学応用、卒業研究の授業分野から各授業を計画する。

**図書館情報学専修、リソースマネージング系列**

図書館情報学専修およびリソースマネージング系列の専門科目は、様々な情報資源を的確に活用できる司書、出版流通や情報に価値を見出す企業に寄与する人材を育成することを教育目標として、計量情報、情報マネジメント、情報メディア、情報利用、情報サービス、卒業研究の授業分野から各授業を計画する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：

<https://www.aasa.ac.jp/examination/policy/faculty.html?id=QuickNavi> )

(概要)

①学生に期待すること

人間情報学部人間情報学科では、「変わりゆく人間社会の未来を予測できる力」「様々な情報資源を的確に活用できる力」、そして「ヒューマンフレンドリーな情報社会に貢献できる力」を身に付けた人材の育成をめざしている。そのために学生に期待することは、「人間」、「情報」、「コンピュータ」について好奇心をもち、それらの3つの視点から柔軟な思考力によって現代社会における問題の所在を発見し、論理的かつ実証的に問題解決を図れることである。

②学生募集に際して重視すること

人間情報学部人間情報学科では、自らの勉学の集大成である「卒業プロジェクト（卒業研究）」に重点を置いている。人間の性質やコンピュータを用いた情報デザイン、情報サービス、情報メディア、および情報システムに興味や関心を持ち、自らの力で論理性と実証性をもって問題解決に取り組める思考力、意欲、および基礎学力を有していることを重視する。

③入学前学習として推奨すること

高校の主要教科の基礎学力をバランスよく確実に身に付けるとともに、課外活動などにも積極的に取り組むことで行動力や責任感を養うことを推奨する。また、テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどの様々なメディアを通して、最新の社会システムや情報システムの動向について日常的な情報収集を行い、人間、情報、およびコンピュータの性質を踏



また視点からその理解や評価に努めることを推奨する。

## 心理学部

### 教育研究上の目的

(<https://www.aasa.ac.jp/guidance/about/policy.html> )

#### (概要)

心理学科は、〈心の多様性と普遍性の理解〉を基本理念とし、人間行動のさまざまな現象を現代心理学の主要な領域から多角的な視点で総合的に究明する教育研究を行う。これにより、他者を尊重するとともに、自己を正しく表出しようとする人材、さらには人間関係の中で生じる諸問題に適切に対処し得る人材を育成することを目的とする。

### 卒業の認定に関する方針

(公表方法：[https://www.aasa.ac.jp/guidance/public\\_info/diploma\\_policy\\_fac.html](https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/diploma_policy_fac.html))

#### (概要)

現代の心理学は実証主義に基づく経験科学であり、また、現実生活で生じる人と人、人と環境のダイナミックな相互作用現象を問題にする行動科学である。したがって、現象を机上のみで理解するのではなく、現象を捉える客観的なデータの収集、分析、考察という、段階的に積み上げていく科学的アプローチが必要とされる。心理学部ではこのような特徴をもつ現代心理学の学修を通じて、心の多様性と普遍性を理解し、他者を尊重するとともに、自己を正しく表出しようとする人材、さらには人間関係の中で生じる諸問題に適切に対処し得る人材を育成することを目指している。この目標を達成するため、人間行動のさまざまな現象を現代心理学の主要な領域である「生理・認知」「社会」「発達」「臨床」の4つの領域から多角的な視点で総合的に究明するカリキュラムを編成し、以下のような知識・能力を身につけた者に学位を授与する。

- 心の多様性と普遍性、人と人、人と環境の相互作用を理解する力
- 科学的な根拠に基づいて実証的に分析し、論理的に思考する力
- 幅広い人間行動や社会現象の中から問題点を発見し解決していく力
- ディスカッションやプレゼンテーションを含むコミュニケーション力

### 教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：

[https://www.aasa.ac.jp/guidance/public\\_info/curriculum\\_policy\\_fac.html](https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/curriculum_policy_fac.html))

#### (概要)

心理学部のカリキュラムでは、心の多様性、普遍性に気づき、人がどのように社会の中で相互作用しているかを効果的に理解するため、「心理学的な視点の広さ」と「科目間の有機的なつながり」を十分に考慮して1・2年次の科目を配し、各授業を計画する。また、それらの授業は専任教員が中心となって担当する。

「心理学」は、中等教育では学習されておらず、間違ったイメージを持っている可能性が高いことを鑑み、1年次には心理学の基礎知識を幅広く学べる科目を配置する。心理学への興味関心を維持、喚起するため、1年次から2年次にかけては、段階的に、より高度で新しい心理学の知識の修得を目標とした科目を、「生理・認知」「社会」「発達」「臨床」の領域でそれぞれ配置する。学生には、この4領域を偏りなく履修することを求める。

知識を修得するための科目と同時に、心の働きを「数量」でとらえ、それに基づいて論理的に思考する力を学ぶための実習科目、演習科目を必修とする。実習・演習で扱う題材は、基礎的知識を修得する科目で学んだことに基づくものとし、また実習・演習で求められるスキルもそれまでの科目で修得したものとす。これらの実習、演習科目では、仮説の導出、データ収集・分析から結論を論理的に導く過程を学ぶだけでなく、グループでのディスカッションや、口頭、並びに研究レポートによる研究成果のプレゼンテーションを通じた、コミュニケーション力の向上も目指すものとする。

心の多様性、普遍性に気づき、理解するためには、以上のような1・2年次での幅広い視点からの段階的学修が必要不可欠である。またこの多角的視点は、自らの興味や心理学的な課題を見つける道標となり、3年次以降の修学の集大成へとつながる。3年次以降は、幅広い人間行動や社会現象の中から問題点を見つけ、学生自らが心理学研究を完遂することを求める。このことを実現するために、1・2年次に学んだ内容のさらに発展的な科目や、心理学のより幅広い科目を配置する。また学生が研究を実施するにあたり、その多様な関心に応えられるよう、専門が異なる多くの専任教授陣を用意し十分な指導をおこなう。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：

<https://www.aasa.ac.jp/examination/policy/faculty.html?id=QuickNavi> )

(概要)

①学生に期待すること

心理学部では、人間に関わるさまざまな現象に関心を持ち、論理的かつ客観的に分析していく姿勢が求められる。また、人の心の問題について自分なりの考えを持っているだけでなく、異なる意見を持つ人たちと議論しながら考えをまとめていくことも必要となる。こうした学修活動に積極的に取り組むことが期待される。

②学生募集に際して重視すること

心理学部では、自らおこなう心理学の研究を卒業論文という形でまとめる。そのためには、図表などからデータを読み取り、それに基づいて客観的に考え、まとめる力が必要である。また、自分の考えを主張するだけでなく、多角的な視点をふまえた上で他者と議論するコミュニケーションの力も必要となる。さらに、本学心理学部で学ぶことができる内容についても、偏りなく把握しておくことが重要である。

③入学前学習として推奨すること

心理学は、文系・理系といった枠にとらわれない。文章理解力や数学的な分析力はもとより、人間の生物学的な特徴の理解も必要であるし、社会学的な視点も必要である。つまり、高校で学ぶ主要教科の基礎学力をバランスよく確実に身につけておく必要がある。そのため、受験のための教科以外についても、高校までの学習内容を復習しておくことが大切である。

創造表現学部

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.aasa.ac.jp/guidance/about/policy.html> )

(概要)

創造表現学科 創作表現専攻は、知的財産としての言語文化・表象文化に関する見識を持ち、その価値の継承・発信の社会的意義を理解しつつ、自己の考えを的確に伝えることのできる人材の育成を目的とし、文化的叡智に幅広く触れることで総合的な判断力を養い、文芸を中心とした創造的な表現活動に携わり得る知識と表現技術を身につけるための教育研究を行う。

創造表現学科 メディアプロデュース専攻は、ビジュアルメディアを中心に映像制作、メディアコンテンツ制作、コミュニケーションデザインなどの分野でメディアの特徴を活かし戦略的に企画・立案できる人材の養成を目的とし、変化する情報メディア社会の諸課題に適切な対処ができ、豊かな自己表現を通して情報発信し得る専門的知識と実践的能力を身につけるための教育研究を行う。

創造表現学科 建築・インテリアデザイン専攻は、建築・インテリアデザイン及びそれに関連する分野で活躍する人材の養成を目的とし、環境、歴史、文化、機能、経済性やエネルギーなどの多様な条件を読み解き、現代社会の様々な課題に取り組むとともに、将来

<p>にわたる長いタイムスパンで都市や人々の生活を描く構想力を持ち、広く社会に貢献する専門的知識と優れた実践的能力を身につけるための教育研究を行う。</p>
<p>卒業の認定に関する方針  (公表方法：<a href="https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/diploma_policy_fac.html">https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/diploma_policy_fac.html</a>)  (概要)</p> <p>創造表現学部では、それぞれの専攻の学修を通じて「表現力」「創造力」「コミュニケーション力」を高めることによって、豊かな自己表現ができ、実社会の諸問題にも適切な対処ができる人材の育成を目標にしている。この教育目標を達成するために、以下にあげるような能力を修得した学生に学位を授与する。</p> <p><b>【創作表現専攻】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 知的財産としての言語文化・表象文化に関する見識を持ち、その価値の継承・発信の社会的意義を理解することができる。(知識・関心・理解)</li> <li>(2) 文化的叡智に幅広く触れることで総合的な判断力を養い、自己の考えを他者に的確に伝えることができる。(思考・判断)</li> <li>(3) 文芸を中心とした創造的な表現活動に携わり得る知識と実践的な表現技術とを身につけることができている。(技能・表現)</li> </ol> <p><b>【メディアプロデュース専攻】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) PC やメディア機器を使用する映像処理を理解し、ビデオやパンフレットなどのメディアコンテンツの制作に関する基礎知識を身につけている。(技能・表現)</li> <li>(2) 各種メディアの特徴を理解し、メディアを利用して豊かに表現、発想ができ、戦略的に企画・立案する能力を身につけている。(関心・態度)</li> <li>(3) 現代社会の問題を読み解き、時代のニーズを的確に捉え、社会的視座を持って問題解決に臨むことができる。(知識・理解)</li> </ol> <p><b>【建築・インテリアデザイン専攻】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 周辺環境、文化的背景、機能や経済性などの多様な条件を読み解き、建築・インテリアに関わる各種課題を解決するために必要な思考力・判断力を有する。(思考・理解・判断)</li> <li>(2) コンセプトを的確に伝えるプレゼンテーション能力と共同作業に必要なコミュニケーション能力を身につけている。(表現・態度)</li> <li>(3) 建築の専門的知識と技能を身に付け、一級建築士などの資格を目指すことができる。(知識・技能)</li> </ol>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針  (公表方法：  <a href="https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/curriculum_policy_fac.html">https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/curriculum_policy_fac.html</a>)  (概要)</p> <p>1 創造表現学部のカリキュラム・ポリシー</p> <p>創造表現学部では、創造性を涵養し、実社会で豊かに表現できる人材を育成することを目的とする。そのために、理論に関する授業と実習の授業をバランスよく提供するとともに、基礎から専門へとスムーズに移行するカリキュラムを提供している。学部共通科目や隣接する他専攻の授業などを自らの興味・関心に沿って履修することで、多角的・総合的な視野を養うことができることも、本学部の特長である。次は各専攻のポリシーである。</p> <p><b>創作表現専攻</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 1・2年次は、基礎科目の学修と基礎演習等によるアカデミックリテラシーの養成とを軸にして、文芸を中心とした創造的な表現活動に携わるための基礎的な知識</li> </ol>

および能力を身につける。

- (2) 3・4年次は、応用科目の学修と演習での協同学習とを軸に表現技術を磨き、卒業プロジェクトに学修成果を結実させる。

#### メディアプロデュース専攻

- (1) メディアプロデュースに関するさまざまな専門的な知識を身につける。
- (2) 実習系授業でコンテンツに関する企画・構想力、表現力などのスキルを身につける。
- (3) 多様化、グローバル化の中で地域文化やメディア産業に関する知識の応用、コミュニケーション能力を身につける。

#### 建築・インテリアデザイン専攻

- (1) 講義科目系の授業で建築の専門知識を基礎から応用まで身につける。
- (2) 豊富な実習系授業で様々なプレゼンテーションスキルを身につける。
- (3) 実験系授業で物理現象を体験・理解し、専門技術を身につける。
- (4) ゼミや演習を通じて共同作業を行い、実社会の課題に取り組む。
- (5) 一級建築士、建築施工管理技士、インテリアプランナーの資格取得に必要な知識・能力を身につける。

### 2 学部共通科目の設置

創造表現のスキルを磨くことは重要な課題であるが、何を表現し発信すべきであるのか、その理念や発想こそが最も重要な部分である。本学部では、社会や文化に対する意識や分析能力の向上を教育の重点課題とし、次の三つの観点からバックグラウンドの充実を図っていきけるように、各専攻の学修の基盤となる学部共通科目を設置している

- (1) 社会的視野を広げる  
社会・民族・宗教・政治・文化・歴史の諸問題に対する理解力を高め、現代社会の状況を論理的に分析できる力を育み、創造活動の基盤を強化する。
- (2) 芸術的素養を身につける  
文学・文芸・美術・デザイン・音楽等、芸術作品を理解する力を高め、創作意欲に結びつけ、芸術的素養を磨いていく。
- (3) 科学的分析力を身につける  
現状を把握し読み解く力、論理的思考力、具体的提案能力など基礎的な思考力を高め、創造活動の深化に結びつけていく。

### 3 カリキュラムの全体構成

授業科目は学部共通科目と各専攻の専門科目とに二分されるが、学生は、学部共通科目と各専攻の専門基礎科目との学修を足がかりにして、以後、学年進行にしたがって、応用科目・発展科目を履修する。

授業科目の形態上の分類は、講義と演習、論文と制作、机上研究（デスクワーク）と体験的学修（フィールドワーク）といった組み合わせからなり、更に、学修の段階に応じて理論系・制作系の科目と演習（ゼミ）とを配置する。

#### 入学者の受入れに関する方針

（公表方法：

<https://www.aasa.ac.jp/examination/policy/faculty.html?id=QuickNavi> )

（概要）

創造表現学部では、文章、映像、または建築などの領域において、創造性豊かに表現することに関心を持ち、また、各分野において受け継がれている独自の表現する文化の理解に努める人を歓迎する。「表現力」「創造力」「コミュニケーション力」を高め、自らが情報発信できる能力を磨きたいと考える人、積極的に様々なメディアの表現やその研究に取り組みたいと考える学生に入学を期待している。

●創造表現学科 創作表現専攻

- (1) 知的財産としての言語文化・表象文化について興味のある人
- (2) 本専攻のカリキュラムを理解し、文芸を中心とした創造的な表現活動に携わり得る知識と実践的な表現技術とを修めるのに必要な基礎学力を有している人
- (3) 書くことと発表することに積極的に取り組む意欲のある人

●創造表現学科 メディアプロデュース専攻

- (1) デジタルメディア、ソーシャルメディア、映像表現などヴィジュアルメディアを学びたい人
- (2) メディア文化、コミュニケーション社会、コンテンツビジネスに興味のある人
- (3) マスコミやネット社会の課題に関心がある人

●創造表現学科 建築・インテリアデザイン専攻

- (1) 建築・住宅・インテリアを学びたい人
- (2) 都市・建築の文化や歴史に興味のある人
- (3) まちづくりなど社会的な問題に関心がある人

健康医療科学部

教育研究上の目的

(<https://www.aasa.ac.jp/guidance/about/policy.html> )

(概要)

医療貢献学科 言語聴覚学専攻においては、言語聴覚士の国家資格を目指し、専門家として中心的な役割を担い得る人材、および言語聴覚士の職能の範囲にとどまらず、必要に応じて新しい検査・評価・訓練・指導の技法の開発や、新しい適切な支援の技術の開発を行い得る知識と技能を有する人材の育成のために必要な教育研究を行う。

医療貢献学科 視覚科学専攻においては、視能訓練士の国家資格を目指し、専門家として中心的な役割を担い得る人材、および視能訓練士の職能の範囲にとどまらず、必要に応じて新しい検査・評価・訓練・指導の技法の開発や、新しい適切な支援の技術の開発を行い得る知識と技能を有する人材の育成のために必要な教育研究を行う。

スポーツ・健康医科学科においては、幅広い臨床医学の教養を有し、その知識を背景に生涯にわたる健康の維持・向上に資するために、スポーツや食生活や教育の各分野で中心的な役割を担い得る、健康に関わる諸科学に関する専門的知識と技能を有する、健康医科学、健康スポーツ科学、健康環境論の専門家を育成するために必要な教育研究を行う。

健康栄養学科においては、管理栄養士の国家資格を目指し、幅広い教養と、専門的かつ科学的な知識、高度な実践能力を有し、人々の健康の保持増進、生活の質の向上を通して健康長寿社会に貢献していく中心的な役割を担い得る人材の育成のために必要な教育研究を行う。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：[https://www.aasa.ac.jp/guidance/public\\_info/diploma\\_policy\\_fac.html](https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/diploma_policy_fac.html))

(概要)

健康医療科学部は高齢者や障がいのある人をはじめ、すべての人の生活の質を向上することに貢献し得る人材、さらに良い人間関係を築くための対人技術および他者への理解と尊重を有する人材の育成を目標にしている(態度)。この教育目標を達成するために、以下の能力を習得した学生に学位を授与する。

**【医療貢献学科（言語聴覚学専攻）】**

- ① 言語聴覚士国家資格獲得を目指し、障がい者支援のための専門家として必要な知識と技能を有する者（知識・技能）
- ② 職能の範囲にとどまらず、必要に応じて問題点を発見し、新しい検査・評価・訓練・指導・支援の技法の開発および評価を行い得る知識と技能を有する者（意欲・判断力・開発力）
- ③ 科学的な根拠にもとづいて実証的に分析し、論理的に思考する能力を有する者（科学的思考力）

**【医療貢献学科（視覚科学専攻）】**

- ① 視能訓練士の国家資格を目指し、障がい者支援のための専門家として必要な知識と技能を有する者（知識・技能）
- ② 職能の範囲にとどまらず、必要に応じて問題点を発見し、新しい検査・評価・訓練・指導・支援の技法の開発および評価を行い得る知識と技能を有する者（意欲・判断力・開発力）
- ③ 科学的な根拠にもとづいて実証的に分析し、論理的に思考する能力を有する者（科学的思考力）

**【スポーツ・健康医科学科】**

- ① スポーツ科学および健康医科学に関する幅広い知識を有し、その知識を背景に、生涯にわたる健康の維持・増進に携わる専門家として認められる者（知識・技能）
- ② 習得した知識をもとに生涯健康に関する諸問題に対し、自ら考え、解決策を見出し、それをもとに行動できる者（判断・関心・行動）
- ③ 健康と運動に関する問題に対し、科学的な根拠にもとづいて実証的に分析する能力を有する者（科学的思考力）

**【健康栄養学科】**

- ① 管理栄養士として必要な幅広い教養と、専門的かつ科学的知識、高度な実践能力を有し、人々の健康の保持・増進、生活の質の向上を通して健康長寿社会に貢献していく高い志を有する者（知識・技能）
- ② 強い使命感と判断力、豊かなコミュニケーション能力を有し、各ライフステージおよび人々の状況に対応した適切な栄養管理を、他職種と協調しながら遂行できる者（意欲・判断力・コミュニケーションスキル）
- ③ 「健康」と「栄養」、「食」に関する問題を自ら発見し、問題解決に向け、科学的根拠に基づいて実証的に分析し、倫理的に思考する能力を有する者（創造的・科学的思考力）

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：

[https://www.aasa.ac.jp/guidance/public\\_info/curriculum\\_policy\\_fac.html](https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/curriculum_policy_fac.html)）

（概要）

本学部は3学科（言語聴覚学専攻および視覚科学専攻を含む医療貢献学科、スポーツ・健康医科学科、健康栄養学科）で構成され、カリキュラムは学科・専攻ごとの専門教育科目と、学部共通である「学部基礎科目」が設定されている。学部基礎科目は健康医療科学を学ぶ上で不可欠な基礎的知識とスキルを身につける目的で設定されている科目である。

**医療貢献学科**

**言語聴覚学専攻**

**(1) 専門基礎科目**

言語聴覚学の専門科目のうち、比較的基礎的な分野に属する科目であり、言語聴覚

学のより専門的な学習の基盤となる科目によって構成された科目群である。

(2) 専門中心科目

言語聴覚士国家試験受験資格専門科目を中核として、言語聴覚学の専門職者として要求される言語聴覚に関する音声学・音響学、心理言語発達学、コミュニケーション障害学の知識と技能の習得を目的とする科目である。言語聴覚学の専門家として、健常者の言語能力、聴覚能力の特性、その障害の評価、訓練・指導、支援について、既成の知識、技能にとらわれず、当該分野の発展に資する能力を習得することが求められる。また、すべての学生が言語聴覚学に関する独自の卒業研究を行い、卒業論文としてまとめることが求められる。

### 視覚科学専攻

(1) 専門基礎科目

視覚科学の専門科目のうち、比較的基础的な分野に属する科目であり、視覚科学のより専門的な学習の基盤となる科目によって構成された科目群である。

(2) 専門中心科目

視能訓練士国家試験受験資格専門科目を中核として、視覚科学の専門職者として要求される視覚の認知科学および視覚心理物理学の知識と技能の習得を目的とする科目である。視覚科学の専門家として健常者の視知覚、視覚認知の特性、障害の評価、訓練・指導・障害者の支援について、既成の知識・技能にとらわれず、当該分野の発展に資する能力を習得することが求められる。また、すべての学生が視覚科学に関わる独自の卒業研究を行い、卒業論文としてまとめることが求められる。

### スポーツ・健康医科学科

スポーツ・健康医科学科の専門科目群は「専門基礎科目」、「専門中心科目」、「発展科目」から構成されている。学科で定めた必修科目を含め、これらの科目群から学生の問題意識・関心に応じて系統的に科目を選択学修し、その成果を卒業研究（健康科学研究）として結実させる。

(1) 専門基礎科目

専門科目のうち、比較的基础的な分野に属する科目群である。専門教育への導入のための科目群（「基礎」、「研究」）と「健康医科学領域」・「健康スポーツ領域」・「健康環境領域」の基礎科目によって構成されている。

(2) 専門中心科目

「健康医科学領域」・「健康スポーツ領域」・「健康環境領域」に関わる諸分野について、より専門性の高い内容を学習する科目群と、卒業研究（健康科学研究）に対する基礎知識を習得するための科目群（「研究」）によって構成されている。健康スポーツ領域科目群には体育実技科目やスポーツ実技科目が含まれている。

(3) 発展科目

専門基礎科目、専門中心科目の学習段階をふまえ、学生が独自の卒業研究（健康科学研究）を行う、ゼミナール形式の科目群（「研究」）である。

### 健康栄養学科

本学科の教育理念は、管理栄養士として必要な幅広い教養と、専門的かつ科学的な知識、高度な実践能力を有し、人々の健康の保持・増進、生活の質の向上を通して健康長寿社会に貢献していく人材を養成することである。この目的を達成するために、以下のような体系でカリキュラムを編成している。

(1) 学科基礎科目

本学科の教育理念や専門教育への導入と、管理栄養士の社会的役割などの理解を深める中で、学びに対する動機付けと将来に向けた目標設定のための科目である。

(2) 専門基礎科目

「社会・環境と健康」、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「食べ物と健康」の学びを通して、管理栄養士として必要な専門知識の基礎や技術を修得す

る科目である。

(3) 専門中心科目

管理栄養士として必要な高度な専門知識と、各ライフステージおよび人々の状況に対応した適切かつ円滑な栄養管理が遂行できる実践能力を身に付けるための科目であり、また、多職種との連携の中で、在宅療養者へ適切な栄養管理が実践できるための知識と技術を修得するための科目である。

(4) 学科発展科目

これまでの学びの集大成として、積み上げてきた各分野における知識と技能を融合させながら、各専任教員の専門領域に関する演習を通して、「健康」と「栄養」、「食」に関する問題を自ら発見し、問題解決に向け、科学的根拠に基づいて実証的に分析し、論理的に思考する能力を養う科目である。

(5) 資格取得科目

食品衛生監視員および食品衛生管理者の任用資格、健康運動実践指導者の資格取得のために必要な知識を身に付けるための科目である。

(6) 教職科目

栄養教諭一種免許状取得のための免許法施行規則に定められた「栄養に係る教育に関する科目」である。

〈2016年度以前入学者〉

愛知淑徳大学健康医療科学部のカリキュラムは、全学共通履修科目である、「教養教育科目」「スポーツ科目」「アクティブラーニング科目」「日本語表現科目」「言語活用科目」「コンピュータ活用科目」等と健康医療科学部独自の科目群である「学部基礎科目」「専門基礎科目」「専門中心科目」から構成されている。さらに、スポーツ・健康医科学科においてはこれらに加え「発展科目」が設置されている。以下に、健康医療科学部独自の科目群の設置の教育的な狙いについて概要を示す。

① 学部基礎科目

医療貢献学科、スポーツ・健康医科学科両学科の専門教育の基礎となり、いずれの学科においても習得すべき内容を学習する科目である。健康医療科学の専門家として必要となる基礎的知識、技能の習得を目的としている。これらの科目の履修によって、各学科・専攻での専門的学習内容を、より広い健康医療科学の体系の中に位置づけることが可能となる。

② 専門基礎科目

医療貢献学科およびスポーツ・健康医科学科の専門科目のうち、比較的基礎的な分野に属する科目である。医療貢献学科においては、言語聴覚学、視覚科学のより専門的な学習の基盤となる科目によって構成された科目群である。スポーツ・健康医科学科においては、スポーツ・健康医科学科の専門科目のうち、比較的基礎的な分野に属する科目である。健康医科学、健康スポーツ、健康環境のより専門的な学習の基礎となる科目によって構成された科目群である。

③ 専門中心科目

医療貢献学科言語聴覚学専攻においては、言語聴覚士国家試験受験資格専門科目を中核として、言語聴覚学の専門職者として要求される言語聴覚に関する音声学・音響学、心理言語発達学、コミュニケーション障害学の知識と技能の習得を目的とする科目である。言語聴覚学の専門家として、健常者の言語能力、聴覚能力の特性、その障害の評価、訓練・指導、支援について、既成の知識、技能にとらわれず、当該分野の発展に資する能力を習得することが求められる。また、すべての学生が言語聴覚学に関する独自の卒業研究を行い、卒業論文としてまとめることが求められる。

医療貢献学科視覚科学専攻においては、視能訓練士国家試験受験資格専門科目を中核として、視覚科学の専門職者として要求される視覚の認知科学および視覚心理物理学の知識と技能の習得を目的とする科目である。視覚科学の専門職者として健常者の視知覚、視覚認知の特性、障害の評価、訓練・指導、障害者の支援について、既成の知識・技能にとらわれず、当該分野の発展に資する能力を習得することが求められる。



また、すべての学生が視覚科学に関わる独自の卒業研究を行い、卒業論文としてまとめることが求められる。

スポーツ・健康医科学科においては、健康医科学、健康スポーツ、健康環境の各領域に関わる諸分野について、より高度に専門的な内容を学習する科目と、教職に関わる体育実技科目によって構成される科目群である。個々の学生の問題意識を最重視しながら、生涯健康維持に関わる諸分野の専門的知識・技能が網羅的に学習できるように配慮されている。

④ 発展科目（スポーツ・健康医科学科）

スポーツ・健康医科学科における4年間の学習の成果をふまえ、独自の卒業研究を行うゼミナール形式の科目群である。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：

<https://www.aasa.ac.jp/examination/policy/faculty.html?id=QuickNavi> )

（概要）

本学部は、言語聴覚学・言語聴覚障害学、視能矯正学・視能訓練学の専門家としての医療人の養成、心身の健康に関する広範な知識をもった教員を含めた生涯健康社会のリーダーの育成、そして、「栄養」、「食」の専門家として医療や健康科学の現場で活躍する人材の養成を目指している。

上記の目標を達成するために、入学者には次の4点を期待する。

- ①医療を含め、健康維持や健康回復に関する高い関心を有し、将来、こうした分野の専門家として社会貢献する強い意思を有していること。
- ②病気や障がいのある人、高齢者などに対して、「違いを共に生きる」の理念に基づき、尊敬と人権尊重の精神を有し、日常的な生活においても、こうした精神を実践できるような人間性を有していること。
- ③新しい知識や技能の習得に積極的で勉強熱心であり、科学的思考力、論理的思考力、実践的行動力を習得しているか、それらを新たに習得することに積極的であること。
- ④人間関係において、適切な自尊感情を有するとともに、他者を尊重し、良好な関係を築くことのできるコミュニケーション能力を習得していること。あるいは、それらを新たに向上させることに積極的であること。

●医療貢献学科 言語聴覚学専攻

①学生に期待すること

言語聴覚士の国家資格をめざす強い意思を持ち、専門領域を学ぶ意欲と情熱を持つことを期待する。

②学生募集に際して重視すること

自己表現力、読解力、作文能力、論理的思考力を身に付けていることと、豊かなコミュニケーション能力を身に付けていることが重要と考える。

③入学前学習として推奨すること

以下のことを通して言語聴覚士の職務内容などについて情報を得、自らの関心について自覚することが望まれる。

- ・オープンキャンパス参加、言語聴覚士の職場見学、ボランティア活動
- ・書籍やマスメディアを用いた言語聴覚学に関する情報収集

●医療貢献学科 視覚科学専攻

①学生に期待すること

視覚の研究を通して科学的思考と問題解決の方法論を習得するとともに、医療にふれる中で健康への安心と人への温かくかつ真面目な姿勢を養い、社会の現場において自己実現をするとともに信頼される人材となることを期待する。

②学生募集に際して重視すること

本専攻では医療職である視能訓練士の資格取得も目的の一つである。医療職に求められ

<p>る健康科学への関心と、コミュニケーション能力を重視する。</p> <p>③入学前学習として推奨すること 日本語能力を含む基礎学力の充実と、広い分野の読書を推奨する。また、ボランティア活動の経験も推奨する。</p> <p>●スポーツ・健康医科学科</p> <p>①学生に期待すること 本学科は、体と心の健康に関する広範な知識を持った生涯健康社会のリーダーの育成を目指している。健康や運動に関する知識だけでなく、社会の動きにも興味を持ち積極的に学ぶ姿勢を持つことを期待する。</p> <p>②学生募集に際して重視すること 心身の健康に関して学ぶ姿勢、社会情勢についての広い関心を持っていること、さらに、自らの健康だけではなく社会に資するために、他者への配慮を心がけることや円滑なコミュニケーションをはかることも重要だと考える。</p> <p>③入学前学習として推奨すること 教科書的な知識だけでなく、書籍やマスメディアからも広く健康・スポーツ・社会に関して学んでおくことが望まれる。</p> <p>●健康栄養学科</p> <p>①学生に期待すること 「栄養」、「食」の科学に関する学修・研究を通して科学的思考と問題解決の方法論を修得すると共に、管理栄養士の現場にふれる中で保健・医療・福祉への関心と豊かな人間性を養い、社会の現場において自己実現できる人材となることを期待する。</p> <p>②学生募集に際して重視すること 保健・医療・福祉に関して高い関心と真摯に学ぶ姿勢、社会情勢や当該分野に関連する様々な事象に対して向学心を持っていること、さらに、自らの健康だけでなく、社会に資するために他者への配慮を心掛けることや円滑なコミュニケーション能力を持っていることも重要である。</p> <p>③入学前学習として推奨すること 高等学校で学ぶ生物、化学の基礎的な知識を身に付けておくことに加え、「健康」、「栄養」、「食」に関する分野の図書や雑誌、新聞記事などを読んでおくことを推奨する。</p>
---

福祉貢献学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：<a href="https://www.aasa.ac.jp/guidance/about/policy.html">https://www.aasa.ac.jp/guidance/about/policy.html</a> )</p> <p>(概要)</p> <p>福祉貢献学科 社会福祉専攻においては、社会福祉士、精神保健福祉士等の国家資格を目指し専門職としての実践を通して社会に貢献する人材、及び教育や福祉に関する専門的知識・実践力・マインドを習得し、福祉社会の成熟に貢献できる人材の育成のために必要な教育研究を行う。</p> <p>福祉貢献学科 子ども福祉専攻においては、保育士や幼稚園教諭の資格取得を目指し、幼児教育の専門家として中心的な役割を担い得る人材、及び幼児教育の範囲にとどまらず社会福祉の知識をも利用して、社会が必要とすることに積極的にかかわれる人材の育成を目指し必要な教育研究を行う。</p> <p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：<a href="https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/diploma_policy_fac.html">https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/diploma_policy_fac.html</a>)</p>

<p>(概要)</p> <p>福祉貢献学部では、福祉に関する社会のしくみと対象の理解に必要な基礎知識を修得したうえで、対象者の求めと必要を理解し、総合的に判断・実践できる人材の育成を目標にしている。この教育目標を達成するために、以下にあげるような能力を習得した学生に学位を授与する。</p> <p>① 知識・理解 人を多面的に理解し、人と社会環境の視点から問題・課題を理解することができる。</p> <p>② 関心・意欲・態度 乳幼児期から高齢期までの人々の尊厳を重視してかかわることができる。</p> <p>③ 思考・判断 対象者の求めと必要を理解し、総合的に判断することができる。</p> <p>④ 技能・表現 体験と実習をとおして学びを深め、専門職としての基礎的実践力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： <a href="https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/curriculum_policy_fac.html">https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/curriculum_policy_fac.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>福祉貢献学部のカリキュラムは、全学共通科目である、「教養教育科目」、「スポーツ科目」、「日本語表現科目」、「コンピュータ活用科目」等と福祉貢献学部独自のカリキュラムから構成されている。この福祉貢献学部独自のカリキュラムは、専門職の養成を目的とした科目を中心に配置し、それぞれの段階で、福祉に関する知識と研究方法を学修することができるようになっている。以下、福祉貢献学部独自のカリキュラムの設置の教育的狙いについて概要を示す。</p> <p>① 社会福祉専攻 社会福祉専攻のカリキュラムは、卒業研究および資格取得に向けて、社会福祉学および関連する学問の知識を学修するとともに援助技術・実践力を体系的に積み上げることができるようになっている。</p> <p><b>1年次</b> 社会福祉の本質・目的、社会のしくみを理解し、対象者に関する基礎理論を学ぶ科目を配置している。</p> <p><b>2・3年次</b> 社会福祉援助の基礎的技術を習得し、対象者の求めと必要に応じた総合的判断をすることができる科目と実習を配置している。</p> <p><b>4年次</b> ゼミをとおして、専門的な学びを深め、卒業研究に取り組む。</p> <p>② 子ども福祉専攻 子ども福祉専攻のカリキュラムは、卒業研究および資格・免許の取得に向けて、子ども福祉および関連領域の学問の知識を学修するとともに保育・幼児教育の技術・実践力を体系的に積み上げることができるようになっている。</p> <p><b>1年次</b> 保育・幼児教育の本質・目的を理解し、子どもの発達に関する基礎理論を学ぶ科目を配置している。</p> <p><b>2・3年次</b> 保育の基礎的技術、内容、方法を身につけ、子どもが主体の環境を構成するための科目と実習を配置している。</p> <p><b>4年次</b> ゼミをとおして、専門的な学びを深め、卒業研究に取り組む。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法： <a href="https://www.aasa.ac.jp/examination/policy/faculty.html?id=QuickNavi">https://www.aasa.ac.jp/examination/policy/faculty.html?id=QuickNavi</a> )</p>

<p>(概要)</p> <p>福祉貢献学部は、福祉マインドを培い、福祉的な思考と実践力を身に付け、社会福祉、及び子ども福祉分野で活躍したいと希望する学生を求める。</p> <p>●福祉貢献学科 社会福祉専攻</p> <p>①学生に期待すること 社会福祉の仕事に関心を持ち、人間や社会について広い視野に立って学ぶとともに、福祉現場での実習や地域活動に主体的に取り組み、実践力を育てることを期待する。</p> <p>②学生募集に際して重視すること 様々な人々と関わり援助することに前向きに取り組む姿勢や肯定的な人間関係を育む能力を有すること。また、大学での学びの基盤となる高校等での学習習慣と基礎学力が養われていることを重視する。</p> <p>③入学前学習として奨励すること 社会福祉の専門職は、人の生活に直面しなければならない。メディア等を通じて生活問題や社会福祉の動向に関心を持ち、考える習慣を身につける。また、様々な活動に参加し、主体的な行動力と安定した社会性を培う。</p> <p>●福祉貢献学科 子ども福祉専攻</p> <p>①学生に期待すること 保育士や幼稚園教諭の仕事に関心を持ち、必要な専門的知識や技術の習得に取り組むこと。人間形成に関わる仕事の重要性を自覚し、個性豊かな保育者をめざして努力することを期待する。</p> <p>②学生募集に際して重視すること 子どもの成長を援助することに前向きに取り組む姿勢や、肯定的な人間関係を育む能力を有すること。また、大学での学びの基盤となる高校等での学習習慣と基礎学力が養われていることを重視する。</p> <p>③ 入学前学習として奨励すること 保育士や幼稚園教諭など子どもの育ちや子育てを支援する専門職には、寛容な人間性と多様な能力が要求される。様々な活動に参加し、主体的な行動力と安定した社会性を培うこと。また、子どもや家庭を取り巻く社会の動向にも目を向ける。</p>
---

<p>交流文化学部</p> <p>教育研究上の目的 (公表方法：<a href="https://www.aasa.ac.jp/guidance/about/policy.html">https://www.aasa.ac.jp/guidance/about/policy.html</a> )</p> <p>(概要)</p> <p>交流文化学科は、さまざまな文化的背景を持つ人々との交流を通して、広い視野から社会を眺め、多様な考え方、生き方、文化を受け入れることができる積極的な姿勢、そして新しい社会・文化を生成する力を育成するための教育研究を行う。学部の理念に基づき構成される、「ランゲージ」「国際交流・観光」の2専攻の理念及び教育目的は、次のとおりである。</p> <p>ランゲージ専攻は、言語・文化を深く理解するとともに、実践的な言語活用能力を兼ね備えた人材の育成を目的とし、英語、中国語、韓国・朝鮮語の語学スキル、日本語を母語としない人への日本語教授法を身につけるための教育研究を行う。</p> <p>国際交流・観光専攻は、広い視野と柔軟な思考力とともに、地域社会・地域観光、国際社会・国際観光の発展に貢献できる実践力を兼ね備えた人材の育成を目的とし、国際交流や異文化への理解とスキル、観光に関する幅広い知識やホスピタリティの理解及びそのスキルを身につけるための教育研究を行う。</p>
--

<p>卒業の認定に関する方針  (公表方法：<a href="https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/diploma_policy_fac.html">https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/diploma_policy_fac.html</a>)</p> <p>(概要)</p> <p>交流文化学部は、さまざまな文化的背景を持つ人々との交流を通して、相互理解と尊重に基づき社会の発展に積極的に貢献する人材の育成を目標にしている。この教育目標を達成するために、以下の能力を習得した学生に学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 多文化・異文化に関する基本的な知識を習得し、広い視野から社会をとらえ、理解することができる。(知識・理解)</li> <li>(2) 多様な考え方・生き方を受け入れることができる。(態度)</li> <li>(3) 獲得した知識・技能・態度等を活用して問題の解決を図ることや新しい社会・文化を生成することに貢献できる。(思考・判断)</li> <li>(4) 日本語と特定の外国語を用いて、読み・書き・聞き・話すことができる。多様な文化的背景を持つ人々と効果的なコミュニケーションができる。(技能・表現)</li> <li>(5) 継続的に、自律して学習・探求することができる。(関心・意欲)</li> </ol>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針  (公表方法：  <a href="https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/curriculum_policy_fac.html">https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/curriculum_policy_fac.html</a>)</p> <p>(概要)</p> <p>〈2019年度入学者〉  本学部では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、以下のようにカリキュラムを編成し、実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 興味・関心・適性に応じて、多角的に学ぶとともに、専門性を備えた知識と実践的な能力を習得させるために、ランゲージおよび国際交流・観光の2つの専攻を置く。ランゲージ専攻には4つの専攻プログラム、国際交流・観光専攻は2つのコースと5つの専攻プログラムを設ける。学生は、1年次には広範囲にわたるカリキュラムの中からさまざまな学問領域の履修を進めた後に、自らの専攻において専門分野としての専攻プログラムを決定する。</li> <li>2. 専門分野の知識・能力を着実に習得させるために、専門科目に4つの主要な科目群を設けるとともに、すべての学生に、基盤科目における1つ以上の外国語を履修すること、また体験科目の所定の単位数を修得することを義務付ける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>中心科目：専門分野の知識を習得させるために、基礎的な科目から発展的な科目へと段階的に科目を配置する。</li> <li>基盤科目：国際社会で活用できる言語コミュニケーション能力を身に付けさせるために、言語科目を体系的・段階的に配置する。</li> <li>体験科目：実践的な能力を習得させるために、ケーススタディ科目、国内外での語学研修やフィールドスタディ科目を設ける。</li> <li>プロジェクト科目：本学部が目指す人材を育成するために、必修科目として各学年にわたって設ける。学生は1年次には基礎演習を履修し基礎的なアカデミックスキルを習得し、2、3年次には交流文化演習を履修し専門を深め、4年次には卒業プロジェクトを通して、修学の集大成である卒業研究論文の完成を目指す。</li> </ul> </li> </ol> <p>〈2018年度以前入学者〉  本学部では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、以下のようにカリキュラムを編成し、実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 興味・関心・適性に応じて、多角的に学ぶことを可能にさせるとともに、併せて専門性を備えた知識と実践的な能力を習得させるために、言語、交流、観光の下に合計10の専攻プログラムを設ける<sup>*1</sup>。学生は、入学時点で学修・研究分野を特定せずに修学を開始し、1年次には広範囲にわたるカリキュラムの中からさまざまな学問領域の履修を進めて、多様な学問的アプローチを経験した後に自らの専門分野としての専攻プ</li> </ol>

プログラムを決定する。

2. 専門分野の知識・能力を着実に習得させるために、専門科目に4つの科目群を設けるとともに、すべての学生に、スキル科目における1つ以上の外国語を履修すること、また体験科目の所定の単位数を修得することを義務付ける<sup>※2</sup>。

中心科目：専門分野の知識を習得させるために、基礎的な科目から発展的な科目へと段階的に科目を配置する。

スキル科目：国際社会で活用できる言語コミュニケーション能力を身に付けさせるために、言語科目を体系的・段階的に配置する。

体験科目<sup>※3</sup>：実践的な能力を習得させるために、ケーススタディ科目、国内外での語学研修やフィールドスタディ科目を設ける。

プロジェクト科目：本学部が目指す人材を育成するために、必修科目として各学年にわたって設ける。学生は1年次には基礎演習を履修し基礎的なアカデミックスキルを習得し、2、3年次には交流文化演習を履修し専門を深め、4年次には卒業プロジェクトを通して、修学の集大成である卒業研究論文の完成を目指す。

※1 2015年度入学生までのカリキュラムにおいては、言語コミュニケーション、言語教育、国際教養、社会貢献、観光からなる5つの専門分野の下に合計12の専攻プログラムを設けるものとする。

※2 2015年度までの入学生は、専門教育科目の「スキル科目」群から10単位以上を修得することによって、「ランゲージスキル」「実践力養成」「コンピュータスキル」のいずれかのスキルプログラムを修了しなければならないものとする。

※3 2015年度入学生までのカリキュラムでは「交流文化体験科目」

#### 入学者の受入れに関する方針

(公表方法：

<https://www.aasa.ac.jp/examination/policy/faculty.html?id=QuickNavi> )

(概要)

#### ●交流文化学科 ランゲージ専攻

##### ①学生に期待すること

ランゲージ専攻では、しっかりとした日本語力を基礎に様々な言語や文化の知識そしてコミュニケーションスキルの修得を通して、国際社会で活躍したいと考える人材の入学を期待している。

##### ②学生募集に際して重視すること

次のことに関心を持ち、個性を伸ばし、自らを磨いていこうという意欲のある人を歓迎する。

- (1) 幅広い視野から異文化を理解する力を身につけたい人。
- (2) 文化の知識、多言語活用能力をはじめとする異文化コミュニケーション能力の向上を目指す人。
- (3) 外国語を使用したスピーチ、ライティング、演劇など自己表現、また言語を教育する力を身につけたい人。

##### ③入学前学習として推奨すること

- (1) 世界の言語・文化への関心を持ち、自らの基礎的なコミュニケーション力の向上に努める。
- (2) 言葉を使用して自らを表現する一方、他の人の自己表現から学ぶ態度を養う。
- (3) 自らの母語である日本語の知識とスキルを伸ばす。
- (4) お互いを理解・尊重し合い、他人の喜びを共に喜び合える態度を養う。

#### ●交流文化学科 国際交流・観光専攻

##### ①学生に期待すること

国際交流・観光専攻では、現代社会で起こるさまざまな事象を多方面からとらえ、かつ社会の発展に寄与するために実践力・行動力を持つ人材へと成長することを目指す人々の

<p>入学を期待している。</p> <p>②学生募集に際して重視すること</p> <p>次のことに興味を持ち、個性を伸ばし、自らを磨いていこうという意欲のある人を歓迎する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 幅広い視野から文化・社会を理解する力を身につけたい人。</li> <li>(2) フィールドワークなどの体験学習を通して社会に貢献する力を身につけたい人。</li> <li>(3) ホスピタリティ精神を培い、学び取った知識・経験を社会に還元する意欲を持つ人。</li> </ol> <p>③入学前学習として推奨すること</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 広い視野から社会を眺めるため、地域や国を超えた人の交流や世の中の出来事にたえず興味を持ち、情報収集力をつける。</li> <li>(2) 言語・社会・文化への興味を持ち、自らの基礎的なコミュニケーション力の向上に努める。</li> <li>(3) ささいなことにも興味を持ち、実際に自らの目で物事を見つめる好奇心・探求心を養う。</li> <li>(4) お互いを理解・尊重し合い、他人の喜びを共に喜び合える態度を養う。</li> </ol>
--

<p>ビジネス学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：<a href="https://www.aasa.ac.jp/guidance/about/policy.html">https://www.aasa.ac.jp/guidance/about/policy.html</a> )</p>
<p>(概要)</p> <p>ビジネス学科は、グローバル化が進む現代社会において活躍しうる実践的専門性を備えたビジネスパーソンを育成するため、ビジネスに関する諸分野の教育研究を行うことを目的とする。この目的に基づき、学科のもとに「現代ビジネス」「グローバルビジネス」の2専攻を置く。</p> <p>現代ビジネス専攻においては、マーケティング、経営戦略、企業会計などの専門知識を身につけ、新しいビジネスの価値を創造できる人材、及び事業運営のサポートができる人材を育成するための教育研究を行う。</p> <p>グローバルビジネス専攻においては、国際経済、国際金融などの専門知識を英語と日本語のバイリンガルで身につけ、それらをグローバルなビジネスの現場で実践できる人材を育成するための教育研究を行う。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：<a href="https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/diploma_policy_fac.html">https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/diploma_policy_fac.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>ビジネス学部は、実社会で自ら道を切り開く「魂ある人材」の育成を目指す学部である。ビジネスに関する専門知識はもちろんのこと、「コミュニケーション能力」「行動力」「情熱」をも兼ね備えた有能な「ビジネスパーソン」を育成する。</p> <p>ビジネス学部を卒業した学生は、幅広い就職先に巣立っていく。将来予想される多様なキャリアパスに対応するために、次のような配慮をしている。</p> <p>2014年度・2015年度に入学した学生に適用されるカリキュラムでは、修得できる能力によって切り分けた5つのコース、「ビジネスイノベーション」「アカウンティング」「ストラテジックICT」「ファイナンス」「ストラテジックマネジメント」を自由に組み合わせる汎用性のある能力を得られるような配慮をしている。</p> <p>2016年度以降に入学した学生に適用されるカリキュラムでは、ビジネス学部における学びからどのような能力が得られるのかを明確化、次の4つの能力を学部教育の中で共</p>

通に習得できる能力として掲げることになった。

**DP①：【つながるチカラ】**

ビジネスパーソンとして必要となるコミュニケーション力が身につけている

**DP②：【適応するチカラ】**

多様な業界に関する知識を修得し、シゴトを理解していると同時に高い職業意識を持っている

**DP③：【応用するチカラ】**

資格を取得し、そのスキルを社会で役立てることができる

**DP④：【行動するチカラ】**

企業と連携したプログラムや海外研修など、実践を通して主体的にやり抜く力を身につけている

多様なキャリアパスに対応するためには軸となる「専門知識」が不可欠である、との観点から、「学びの専門性」をさらに高めることを目的とする専攻・コース等を設置することとした。

2016年度・2017年度の入学者については、従来の5つのコースを3専攻（ビジネスイノベーション専攻、ビジネスアカウンティング専攻、グローバルビジネス専攻）に集約し、1年次後期から各専攻での「専門的な学び」から次の能力が得られるような配慮をしている。

2018年度の入学者からは、入学時より現代ビジネス専攻とグローバルビジネス専攻に分けることにより、専門的な学びをさらに推し進める体制とした。このうち現代ビジネス専攻の学生は、1年次後期よりビジネスイノベーションコース、ビジネスアカウンティングコースに分かれることで、従来からの専門の枠組みを維持している。

**【現代ビジネス専攻】**

ビジネスイノベーションコース（2016年度・2017年度の「ビジネスイノベーション専攻」に該当）

**DP⑤-BI：【アイデアを創造し、形にするチカラ】**

マーケティングと経営戦略の知識をベースとし、アクティブラーニングを通じて、企業・組織に対して問題解決案を提示することができる

ビジネスアカウンティングコース（2016年度・2017年度の「ビジネスアカウンティング専攻」に該当）

**DP⑤-BA：【ビジネスの言語を読み解き、経営をサポートするチカラ】**

会計学全般の知識をベースとし、財務諸表を作成・分析するスキルを修得した上で、経営者に対して専門的な助言ができる

**【グローバルビジネス専攻】**

**DP⑤-GB：【世界とつながり、現場で活躍するチカラ】**

国際経済、国際金融などのグローバルビジネスの現場に必要な専門知識を、英語と日本語のバイリンガルで身につけている

その上で、ビジネス学部では2014年度入学者以降、コアとなる知識を確実に修得するためにゼミナール・卒業プロジェクトを必修化（卒業プロジェクトについてはグローバルビジネス専攻を除く。）し、ゼミが所属する分野の科目を集中的に履修することを義務づけている。また、簿記、語学、コンピュータなどの実践的領域のスキルを1つ以上向上させることにより、企業などの実社会で活躍しうるビジネスパーソンを育成することを目指している。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：

[https://www.aasa.ac.jp/guidance/public\\_info/curriculum\\_policy\\_fac.html](https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/curriculum_policy_fac.html)）



(概要)

ビジネス学部は、実社会で自ら道を切り開く「魂ある人材」の育成を目指す学部である。ビジネスに関する専門知識はもちろんのこと、「コミュニケーション能力」「行動力」「情熱」をも兼ね備えた有能な「ビジネスパーソン」を育成する。

2016年度以降入学者に適用されるカリキュラムの特色は以下の通りである。

**各専攻・コース共通**

- ① 将来自らがどのような「役割」を組織の中で果たしたいと考えるのか、学生の多様な「ビジョン」に対応できるよう、「ビジネスイノベーション」、「ビジネスアカウンティング」、「グローバルビジネス」の専攻・コースを設置。
- ② 1年次には、ビジネスに必要な基礎知識・基礎能力を育成するための科目および、行動力を養うグループワーク科目を配置、専攻・コースにまたがって広く履修することを義務付け、汎用的な能力を育成する。
- ③ 1年次後期に専攻入門ゼミ（必修）を配置することで、専攻・コースでの学びに早く慣れるようサポートしている。
- ④ 2年次から始まるゼミナール科目（必修）をベースに、専攻専門科目を体系的に修得することで、各専攻・コースの専門的な学びを充実したものにできるよう工夫している。

**各専攻・コースの特色**

**[ビジネスイノベーション専攻]**（2016年度・2017年度）

**[ビジネスイノベーションコース]**（2018年度以降）

- BI①：マーケティング&ストラテジークラスタに配置された科目は、多くの科目で双方向性を保証、内容の重複がないよう設計することで、生きた知識を習得できるよう配慮している。
- BI②：ASICP（イノベーション&チャレンジプログラム）を専攻・コースに所属する学生全員が体験することで、実社会で即戦力となりうる「行動力」を身に付けられるよう配慮している。
- BI③：4年次の卒業プロジェクトⅠ・Ⅱ（必修）により、修学の集大成である質の高い卒業論文の完成を目指す。

**[ビジネスアカウンティング専攻]**（2016年度・2017年度）

**[ビジネスアカウンティングコース]**（2018年度以降）

- BA①：アカウンティングクラスタに配置された科目は、実務家教員による現場での実務を重視した科目と、大学院出身教員による理論を重視した科目をバランスよく配置しており、会計の実学的側面を学ぶことができるよう配慮している。
- BA②：ASAAP（アカウンティング&アナリシスプログラム）を専攻・コースに所属する学生全員が体験することで、現実の企業の会計数値を読み解き、企業が直面する課題を分析する力を養成する。
- BA③：4年次の卒業プロジェクトⅠ・Ⅱ（必修）により、修学の集大成である質の高い卒業論文の完成を目指す。

**[グローバルビジネス専攻]**

- GB①：専攻に所属する学生全員がASBBE（バイリンガル・ビジネス・エデュケーションプログラム）を体験することで、グローバルビジネスの共通語である英語で実践する力を身につけるとともに、必要な専門知識を英語で修得できるよう配慮している。
- GB②：ASBBEの集大成として、英語が飛び交うビジネスの現場を体験することによって、英語を活かし行動する力を養成する。
- GB③：グローバルエコノミークラスタに配置された科目は、ビジネスの現場を理解する生きた知識を、日本語で修得できるよう配慮している。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：

<https://www.aasa.ac.jp/examination/policy/faculty.html?id=QuickNavi> )

(概要)

ビジネス学部は、国内外のビジネスの現場で能力を発揮することを通じて、社会の発展に貢献する人材を育てる。1) さまざまな職種・業種で役に立つ知識やスキル、2) 直面する問題を解決するための論理的な思考力や判断力、3) 組織の目標を達成するための協調性やリーダーシップ——これらを身につけたい人の入学を求める。

●ビジネス学科 現代ビジネス専攻

①学生に期待すること

現代ビジネス専攻は、アクティブラーニングによる実践的な授業を多く開講している。このような授業に参画することを通じて、ビジネスの現場で必要となるさまざまな能力を身につけたいと考える人を歓迎する。

②学生募集に際して重視すること

現代ビジネス専攻では、ビジネスの現場で能力を発揮する人材になりたいという積極的な姿勢に加え、アクティブラーニングにおいて必要となる行動力、コミュニケーション力を重視する。

③入学前学習として推奨すること

政治・経済など世の中の動きについて、新聞・テレビ・インターネットなどを通じて広く関心をもつことが大事である。また、重要なニュースや出来事については、自分の考えや意見を持つように心がける。国語・英語・数学など主要科目の基礎学力は、専攻での学修の基盤となる。

●ビジネス学科 グローバルビジネス専攻

①学生に期待すること

グローバルビジネス専攻は、日本語と英語のバイリンガルでカリキュラムを構成している。ビジネスの現場で必要となるさまざまな能力をバイリンガルで身につけたいと考える人を歓迎する。

②学生募集に際して重視すること

グローバルビジネス専攻では、ビジネスをバイリンガルで学ぼうという姿勢を重視する。国内外での英語を使ったインターンシップ研修などが必修科目であるため、多様な考え方と向き合う積極性や行動力も必要となる。

③入学前学習として推奨すること

政治・経済など世の中の動きについて、新聞・テレビ・インターネットなどを通じて広く関心をもつことが大事である。とくに海外のニュースや出来事については、日本との関わりを考え、理解するよう心がける。国語・英語・数学など主要科目の基礎学力に加え、ビジネス英語を修得したいという意欲や、近現代を中心とする世界史の知識は、専攻での学修の基盤となる。

グローバル・コミュニケーション学部

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.aasa.ac.jp/guidance/about/policy.html> )

(概要)

グローバル・コミュニケーション学科は、常に変化する国際社会を理解し、国内外の様々な事象を意識し、グローバルな視点を持てるようになるため、英語運用能力と幅広い教養を身につけるために必要な理論的、実践的な教育研究を行う。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：[https://www.aasa.ac.jp/guidance/public\\_info/diploma\\_policy\\_fac.html](https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/diploma_policy_fac.html))

<p>(概要)</p> <p>グローバル・コミュニケーション学部では、グローバル社会において、文化や価値観の異なる人々と協力してさまざまな課題や問題を解決する能力のある「地球市民」を育成することとしている。</p> <p>(DP1) 国内・国外の文化や社会情勢を理解し、世界の人々に説得力のあるメッセージを発信するために必要な知識を身に付ける。</p> <p>(DP2) グローバル社会であらゆる状況に対応するために必要な英語運用能力、英語コミュニケーション能力、問題解決能力を身に付ける。</p> <p>(DP3) 文化や価値観が異なる社会での学修や体験を通じ、社会的・文化的背景の異なる人々の違いを認め、同じ「地球市民」として共生するように考えることができる姿勢を身に付ける。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： <a href="https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/curriculum_policy_fac.html">https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/curriculum_policy_fac.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>グローバル・コミュニケーション学部では、グローバルな視点を持ち、どのような状況にも十分に対応できる実践的な英語コミュニケーション能力を備える人材を育成することを目的とする。そのため、本学部のカリキュラムは「中心科目 (Core Subjects)」「スキル科目 (Skill Subjects)」「アクティブ・ラーニング科目 (Active Learning)」から構成されている。</p> <p>「Core Subjects」では、グローバルな視点を持ち、世界に向けて正確で説得力のある内容を発信するために必要な知識を身に付ける。中心科目は、人と人のコミュニケーションについて学ぶ「人間コミュニケーション (Human Communication)」、日本の文化や伝統、現代日本の状況を学ぶ「日本学 (Japanology)」、世界情勢をさまざまな観点から学ぶ「グローバル・アウェアネス (Global Awareness)」の3つの科目群からなっている。</p> <p>「Skill Subjects」では、グローバル社会で必要となるスキルを身に付ける。スキル科目は、英語運用能力を徹底的に磨くための「English Language Skills」、高度な英語コミュニケーション能力を身に付けるための「English Communication Skills」、問題発見・解決能力を身に付けるための「Research Skills」の3つの科目群からなっている。</p> <p>「Active Learning」では、海外留学、海外インターンシップなどのアクティブ・ラーニング (能動的課題解決型学習) を通じてグローバルな価値観を身に付ける。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法： <a href="https://www.aasa.ac.jp/examination/policy/faculty.html?id=QuickNavi">https://www.aasa.ac.jp/examination/policy/faculty.html?id=QuickNavi</a> )</p>
<p>(概要)</p> <p>グローバル・コミュニケーション学部は、グローバル化が進む国際社会で、社会的・文化的な多様性を踏まえて協力し、共に課題に取り組むことのできる「地球市民」の育成を目指す学部である。</p> <p>①学生に期待すること 「地球市民」としての必要な知識を学ぶため、世界の国や地域、自国の社会と文化、言語・コミュニケーションに関する科目を設定している。よって、自他の社会・文化・言語やコミュニケーションについて関心を持ち、積極的に学ぶ姿勢を期待する。</p> <p>②学生募集に際して重視すること 英語での授業に積極的に取り組む意欲と姿勢を重視する。更に、国際・地域社会に対する広い関心を持っていること、高校までの基礎学力と学習習慣が身についていることも大切</p>

である。

③入学前学習として推奨すること

高校の授業や課外活動を通じて人や社会との豊かな関わりを多く経験しておく。新聞、読書などを通じて、「異文化」やグローバル社会の出来事に対する関心を高めておく。継続的な英語の学修もお薦めする。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：[https://www.aasa.ac.jp/guidance/public\\_info/index.html](https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/index.html)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
文学部	—	20人	7人	1人	3人	0人	31人
人間情報学部	—	8人	4人	5人	3人	0人	20人
心理学部	—	11人	4人	4人	0人	0人	19人
創造表現学部	—	12人	7人	2人	2人	0人	23人
健康医療科学部	—	28人	11人	2人	2人	4人	47人
福祉貢献学部	—	6人	9人	2人	1人	0人	18人
交流文化学部	—	15人	4人	2人	0人	0人	21人
ビジネス学部	—	13人	3人	1人	2人	0人	19人
グローバル・コミュニケーション学部	—	6人	0人	4人	4人	0人	14人
情報教育センター	—	0人	0人	0人	1人	0人	1人
国際交流センター	—	0人	0人	0人	1人	0人	1人
留学生別科	—	1人	0人	0人	0人	0人	1人
コミュニティ・コラボレーションセンター	—	0人	0人	1人	1人	0人	2人
キャリアセンター	—	0人	0人	0人	2人	0人	2人
教職・司書・学芸員教育センター	—	9人	1人	0人	1人	0人	11人
健康スポーツ教育センター	—	0人	1人	0人	1人	0人	2人
初年次教育部門	—	1人	0人	5人	3人	0人	9人
外国語教育部門	—	1人	2人	11人	0人	0人	14人
教養教育部門	—	0人	0人	0人	0人	0人	0人
会計教育部門	—	0人	0人	0人	0人	0人	0人
ジェンダー・女性学研究所	—	0人	0人	0人	0人	0人	0人
学生相談室	—	0人	0人	0人	3人	0人	3人
心理臨床相談室	—	0人	0人	0人	1人	0人	1人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		679人					679人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベースURL等）		公表方法： <a href="http://pnavi.aasa.ac.jp/researchwork/eir01u">http://pnavi.aasa.ac.jp/researchwork/eir01u</a>					
c. FD（ファカルティ・デベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>全学に於いて、年1回研修会を行うとともに、各研究科、学部にも、その年度計画に基づいたテーマに沿った研修会を年1回実施している。テーマは、各部局が直面している課題に関するものが選択されている。2018年度は導入教育のあり方や、入学時データの分析に基づく研修を全学で実施した。</p> <p>また、年に1度実施している授業アンケートによる授業改善にも積極的に取り組んでいる。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	295人	306人	103%	1,195人	1,394人	116%	若干名	2人
人間情報学部	200人	203人	101%	800人	959人	119%	若干名	0人
心理学部	180人	188人	104%	720人	850人	118%	若干名	2人
創造表現学部	295人	308人	104%	1,195人	1,381人	115%	若干名	2人
健康医療科学部	290人	314人	108%	1,050人	1,224人	116%	若干名	0人
福祉貢献学部	120人	125人	104%	480人	574人	119%	若干名	0人
交流文化学部	280人	284人	101%	1,120人	1,404人	125%	-	-
ビジネス学部	230人	234人	101%	920人	1,152人	125%	若干名	0人
グローバル・コミュニケーション学部	60人	61人	101%	240人	261人	108%	若干名	0人
合計	1,950人	2,023人	103%	7,720人	9,199人	119%	若干名	6人

(備考)  
 ・2019年度は、交流文化学部の編入学募集無し  
 ・創造表現学部の在学生数には、メディアプロデュース学部(2016年4月創造表現学部に変更)の学生を含む

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	329人 (100%)	4人 (1.2%)	293人 (89.0%)	32人 (9.7%)
人間情報学部	213人 (100%)	0人 (0%)	190人 (89.2%)	23人 (10.8%)
心理学部	191人 (100%)	14人 (7.3%)	162人 (84.8%)	15人 (7.9%)
メディアプロデュース学部	312人 (100%)	0人 (0%)	250人 (80.1%)	62人 (19.9%)
健康医療科学部	226人 (100%)	4人 (1.8%)	196人 (86.7%)	26人 (11.5%)
福祉貢献学部	126人 (100%)	4人 (3.2%)	115人 (91.3%)	7人 (5.6%)
交流文化学部	351人 (100%)	4人 (1.1%)	316人 (90.0%)	31人 (8.8%)
ビジネス学部	265人 (100%)	5人 (1.9%)	243人 (91.7%)	17人 (6.4%)
現代社会学部 (旧学部)	1人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	1人 (100%)
合計	2,014人 (100%)	35人 (1.7%)	1,765人 (87.6%)	214人 (10.6%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内			
		卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	326人 (100%)	305人 (93.6%)	15人 (4.6%)	6人 (1.8%)	0人 (0.%)
人間情報学部	233人 (100%)	206人 (88.4%)	14人 (6.0%)	13人 (5.6%)	0人 (0%)
心理学部	200人 (100%)	184人 (92.0%)	10人 (5.0%)	6人 (3.0%)	0人 (0%)
メディアプロデュース学部	349人 (100%)	299人 (85.7%)	27人 (7.7%)	23人 (6.6%)	0人 (0%)
健康医療科学部	234人 (100%)	217人 (92.7%)	10人 (4.3%)	7人 (3.0%)	0人 (0%)
福祉貢献学部	125人 (100%)	122人 (97.6%)	2人 (1.6%)	1人 (0.8%)	0人 (0%)
交流文化学部	395人 (100%)	335人 (84.8%)	41人 (10.4%)	19人 (4.8%)	0人 (0%)
ビジネス学部	267人 (100%)	246人 (92.1%)	12人 (4.5%)	9人 (3.4%)	0人 (0%)
グローバル・コミュニケーション学部	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
合計	2,129人 (100%)	1,914人 (89.9%)	131人 (6.2%)	84人 (3.9%)	0人 (0%)

（備考）文学部：2014年度入学で2015年度転学生1名転入（修業年限内で卒業）→入学者数・卒業生数1名増。2015年度入学で2015年度転学生1名転出→入学者数1名減、2015年度入学で2015年度転学生1名転入（修業年限内で卒業）→入学者数1名増、卒業生数1名増。2015年度入学で2016年度転学生1名転出→入学者数1名減。

心理学部：2015年度入学で2015年度転学生1名転入（留年）→入学者数・留年者数に1名増。

健康医療科学部：2015年度入学で2015年度転学生1名転出→入学者数1名減。2015年度入学で2016年度転学生2名転出→入学者数2名減。

交流文化学部：2015年度入学で2015年度転学生1名転出→入学者数1名減。2015年度入学で2015年度転学生1名転入（修業年限内で卒業）→入学者数・卒業生数に1名増。

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

毎年12月初旬に、シラバス執筆者に授業計画（シラバス）執筆を依頼。シラバス執筆者は、授業計画（シラバス）執筆要領により、執筆項目を記載。執筆項目は、次のとおり。  
①授業の概要、②授業の目標、③授業計画、④授業外学修の指示、⑤評価方法、⑥使用テキストの有無とテキストのタイトル、⑦参考文献・資料の明示。

提出にあたり、シラバス執筆者自身がシラバス・チェックリストで記載内容を確認の上、提出。提出方法は、シラバス執筆システムによる。

1月初旬の提出締め切り後、シラバス担当が確認し、不備がある場合は執筆者に連絡し、修正を依頼。確認作業終了後、1月中旬に入稿。数回の校正を経て、3月中旬にシラバス（冊子）完成、在学生の希望者に配布。4月に新入生全員に配布。Webシラバスは、3月中旬に大学HPに公開。

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>成績は、授業担当者が定期試験・レポート・小テスト・平常の学修状況・実技実習等の評価方法により、学修指標に対する到達結果をもって評価する。科目ごとの具体的な評価方法については、「授業概要（シラバス）」に記載。</p> <p>また、学部ごとに成績評価における評価項目・評価基準を定めている。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	国文学科	124 単位	○有・無	前期 25 単位 後期 24 単位
	総合英語学科	124 単位	○有・無	前期 25 単位 後期 24 単位
	教育学科	124 単位	○有・無	前期 25 単位 後期 24 単位
人間情報学部	人間情報学科	124 単位	○有・無	前期 24 単位 後期 24 単位
心理学部	心理学科	124 単位	○有・無	前期 24 単位 後期 24 単位
創造表現学部	創造表現学科 創作表現専攻	124 単位	○有・無	前期 24 単位 3年のみ後期 25 単位 1・2・4年後期 24 単位
	創造表現学科メディア アプロデュース専攻	124 単位	○有・無	前期 24 単位 3年のみ後期 25 単位 1・2・4年後期 24 単位
	創造表現学科建築・ インテリアデザイン 専攻	124 単位	○有・無	前期 24 単位 後期 24 単位
健康医療科学部	医療貢献学科 言語聴覚学専攻	140 単位	○有・無	1年 制限なし 2年以降前・後期 各 26 単位
	医療貢献学科 視覚科学専攻	140 単位	○有・無	1・2年 制限なし 3年以降前・後期 各 28 単位
	スポーツ・健康医科学 学科	125 単位	○有・無	前期 24 単位 後期 24 単位
	健康栄養学科	124 単位	○有・無	1年前・後期各 28 単位 2年以降前・後期 各 24 単位
福祉貢献学部	福祉貢献学科 社会福祉専攻	124 単位	○有・無	1・2年前・後期 各 28 単位 3年以降前・後期 各 24 単位
	福祉貢献学科 子ども福祉専攻	124 単位	○有・無	1・2年前・後期 各 28 単位 3年以降前・後期 各 24 単位
交流文化学部	交流文化学科 ランゲージ専攻	124 単位	○有・無	1年前期・2年後期 25 単位 その他の年次・学期 24 単位
	交流文化学科 国際交流・観光専攻	124 単位	○有・無	1年前期・2年後期 25 単位 その他の年次・学期 24 単位



ビジネス学部	ビジネス学科 現代ビジネス専攻	124 単位	◎・無	前期 24 単位 後期 24 単位
	ビジネス学科グロー バルビジネス専攻	124 単位	◎・無	前期 24 単位 後期 24 単位
グローバル・ コミュニケーション学部	グローバル・コミュ ニケーション学科	124 単位	◎・無	前期 24 単位 後期 24 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		成績評価の明確化及び学習意欲の向上を目的として、G P A 制度を導入。また、半期における履修登録単位数の上限（C A P 制の導入）を定めている。 公表方法： <a href="https://www.aasa.ac.jp/life/support/summary/directory.html">https://www.aasa.ac.jp/life/support/summary/directory.html</a>		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：[https://www.aasa.ac.jp/guidance/public\\_info/index.html](https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/index.html)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
文学部	国文学科 1年生	760,000円	200,000円	366,000円	教育充実費：360,000円 新入生研修合宿経費：6,000円
	国文学科 2～4年生	760,000円	—	360,000円	教育充実費：360,000円
	総合英語学科 1年生	760,000円	200,000円	366,000円	教育充実費：360,000円 新入生研修合宿経費：6,000円
	総合英語学科 2年生	760,000円	—	360,000円	教育充実費：360,000円
	教育学科 1年生	760,000円	200,000円	416,000円	教育充実費：410,000円 新入生研修合宿経費：6,000円
	教育学科 2～4年生	760,000円	—	410,000円	教育充実費：410,000円
	英文学科 3～4年生	760,000円	—	360,000円	教育充実費：360,000円
人間情報学部	人間情報学科 1年生	760,000円	200,000円	416,000円	教育充実費：410,000円 新入生研修合宿経費：6,000円
	人間情報学科 2～4年生	760,000円	—	410,000円	教育充実費：410,000円
心理学部	心理学科 1年生	760,000円	200,000円	416,000円	教育充実費：410,000円 新入生研修合宿経費：6,000円
	心理学科 2～4年生	760,000円	—	410,000円	教育充実費：410,000円
創造表現学部	創造表現学科 (創作表現専攻、メディアプロデュース専攻1年生)	760,000円	200,000円	366,000円	教育充実費：360,000円 新入生研修合宿経費：6,000円
	創造表現学科 (創作表現専攻、メディアプロデュース専攻2～4年生)	760,000円	—	360,000円	教育充実費：360,000円
	創造表現学科 (建築・インテリアデザイン専攻1年生)	760,000円	200,000円	366,000円	教育充実費：360,000円 新入生研修合宿経費：6,000円
	創造表現学科 (建築・インテリアデザイン専攻2～4年生)	760,000円	—	460,000円	教育充実費：440,000円 実験実習費：20,000円
健康医療科学部	医療貢献学科 言語聴覚学専攻1年生	860,000円	200,000円	531,000円	教育充実費：500,000円 新入生研修合宿経費：6,000円 実験実習費：25,000円
	医療貢献学科 言語聴覚学専攻2年生	860,000円	—	650,000円	教育充実費：600,000円 実験実習費：50,000円
	医療貢献学科 言語聴覚学専攻3年生	860,000円	—	700,000円	教育充実費：600,000円 実験実習費：100,000円
	医療貢献学科 言語聴覚学専攻4年生	860,000円	—	675,000円	教育充実費：600,000円 実験実習費：75,000円

	医療貢献学科 視覚科学専攻 1年生	860,000円	200,000円	506,000円	教育充実費：500,000円 新入生研修合宿経費：6,000円
	医療貢献学科 視覚科学専攻 2年生	860,000円	—	630,000円	教育充実費：600,000円 実験実習費：30,000円
	医療貢献学科 視覚科学専攻 3・4年生	860,000円	—	656,000円	教育充実費：600,000円 実験実習費：56,000円
	スポーツ・健康 医科学科 1年生	760,000円	200,000円	416,000円	教育充実費：410,000円 新入生研修合宿経費：6,000円
	スポーツ・健康 医科学科 2～4年生	760,000円	—	410,000円	教育充実費：410,000円
	健康栄養学科 1年生	800,000円	200,000円	526,000円	教育充実費：450,000円 新入生研修合宿経費：6,000円 実験実習費：70,000円
	健康栄養学科 2年生	800,000円	—	540,000円	教育充実費：500,000円 実験実習費：40,000円
	健康栄養学科 3年生	800,000円	—	570,000円	教育充実費：500,000円 実験実習費：70,000円
福祉貢献学部	福祉貢献学科 1年生	760,000円	200,000円	416,000円	教育充実費：410,000円 新入生研修合宿経費：6,000円
	福祉貢献学科 2～4年生	760,000円	—	410,000円	教育充実費：410,000円
交流文化学部	交流文化学科 1年生	760,000円	200,000円	366,000円	教育充実費：360,000円 新入生研修合宿経費：6,000円
	交流文化学科 2～4年生	760,000円	—	360,000円	教育充実費：360,000円
ビジネス学部	ビジネス学科 1年生	760,000円	200,000円	366,000円	教育充実費：360,000円 新入生研修合宿経費：6,000円
	ビジネス学科 2～4年生	760,000円	—	360,000円	教育充実費：360,000円
グローバル・コ ミュニケーショ ン学部	グローバル・コ ミュニケーショ ン学科 1年生	860,000円	200,000円	366,000円	教育充実費：360,000円 新入生研修合宿経費：6,000円
	グローバル・コ ミュニケーショ ン学科 2～4年生	860,000円	—	360,000円	教育充実費：360,000円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要)  アドバイザーによる面談を Semester ごとに実施している。そこで把握した問題については、各教育組織単位ごとに必要に応じて共有し、各教育組織単位全体で支援体制を整えている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要)  学生個々が自己と職業についての理解を深め、キャリアデザインを形成する中で、実社会で使える力を伸ばすためのインターンシップを中心とする体験型学習、ガイダンスやセミナーを通じて、自分の魅力や能力を表現でき、自律的に行動する企業等社会が必要とする人材育成のためのキャリア教育や支援体制の整備・実践を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要)  メンタルについては学生相談室におけるカウンセラーによる支援を行っており、必要に応じて各教育組織単位との連携を図っている。身体的健康については、保健管理室が支援を行い、必要に応じて各教育組織単位と連携している。メンタル、身体ともにクリニックとの連携も進められている。身体障害については、障がい学生支援委員会が中心となり、学生部、各教育組織単位、学生によるボランティア活動組織との連携の下、支援を行っている。

⑤ 教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : [https://www.aasa.ac.jp/guidance/public\\_info/index.html](https://www.aasa.ac.jp/guidance/public_info/index.html)